

40年のあゆみ

Junior Chamber International Japan
Worldwide Federation of Young Leaders and Entrepreneurs

公益社団法人

山梨青年会議所

IMAGINE

ご挨拶

公益社団法人 山梨青年会議所
第40代理事長

吉原 誠



公益社団法人山梨青年会議所が40周年を迎えるにあたり、創立より今日まで鋭意努力されてきました先輩諸兄にあらためて感謝すると共に、我々の活動にご支援・ご協力頂きました関係者の皆様、また我々の大切な仲間である各地青年会議所メンバーの皆様に熱く、熱く御礼申し上げます。

1949年「新日本の再建は我々青年の仕事である。」と公益社団法人日本青年会議所の先駆けとして東京青年会議所が設立されました。「その思い」はこの山梨市にも波及し1973年12月8日、「高き志と熱き使命感」をもった青年達によって国内で551番目となる山梨青年会議所が誕生しました。「奉仕」「修練」「友情」の3信条の下、幾重もの「熱い思い」を積み重ね、今年度公益社団法人山梨青年会議所は40周年を迎える運びとなりました。「明るい豊かな社会への実現」を目指し立ち上がった先輩諸兄の「熱い思い」は、今も我々現役メンバーがしっかりと受け継ぎ「その思い」のもと、活動しております。

今年度「Imagine～夢現の可能性を信じて～」をスローガンに掲げさせて頂きました。まずは「創始の精神」を、また先輩諸兄が「どのような思い」を抱き活動してきたのかを想像すべきだと考えました。そして現役メンバーである我々がその「思い」をしっかりと受け止め、我が町「山梨市」の未来を想像し、その思いを引き継いでいきたいと考え、このようなスローガンにさせて頂きました。

私はこの山梨市が大好きです。先輩方と同じように、この山梨市が「より良いまち」になる事を切に願っております。近頃では「JCしかない時代から、JCもある時代になった」などと言われております。それでも私はJCしかないと考えております。まだまだ我々しか出来ない事がたくさんあり、我々だからこそ出来る事がたくさんあります。だからこそ我々は多くの問題点に気付かなければならず、邁進して行かなければならないのです。今年一つの節目として40周年を迎える訳ですが、本年は節目であると同時に新たなスタートの年でもあります。まだまだ我々は走り続けます。創始の精神である「高き志と熱き使命感」を胸に、我々だからこそ出来る事をやり遂げていきたいと思っております。

結びとなりますが、関係者各位にあらためて御礼申し上げますと共に、今後の更なるご指導ご鞭撻を賜ります事をお願い致しまして、ご挨拶とさせて頂きます。

祝 辞

山梨県知事

横 内 正 明



公益社団法人山梨青年会議所が創立40周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

山梨青年会議所におかれましては、長年にわたり、地域おこし、まちづくり、福祉活動や青少年の健全育成活動など幅広い分野で精力的に活動を展開され、地域の発展に大きく貢献されました。歴代の理事長、役員の方々をはじめ、熱意あふれる多くの会員の皆様の献身的なご尽力に心から感謝申し上げます。

また、昨年は東日本大震災により東北地方を中心に未曾有の被害がもたらされましたが、山梨青年会議所の皆様におかれましては、震災発生直後から、各地の青年会議所と連携し、被災地の復興のために、義捐金や物資の支援、被災地でのボランティア活動など多方面でご活躍をいただきました。あらためて深く敬意を表する次第であります。

さて、県では、「暮らしやすさ日本一」の山梨づくりを実現するため、着実に育ちつつある「やまなし発展の芽」、すなわち将来の山梨発展に向けた変化を大きな成果へと結実させていくこととしており、県政運営の基本方針として「第二期チャレンジ山梨行動計画」を策定し、その実行に着手しております。リニア中央新幹線について平成39年の開業を見据えた本県の目指すべき将来像を描くとともに、エネルギーの地産地消を目指して、クリーンエネルギーの導入促進に取り組んでおります。また、ブドウや桃などの県産農産物については、やまなしブランドの確立に努めているところであり、トップセールス等を通して消費の拡大とイメージアップにつなげる戦略を展開しております。

このような発展の芽を着実に育て上げ、県民誰もが安心と希望を持てる「暮らしやすさ日本一」の山梨を創り上げていくため、最大限の努力をして参りますので、山梨青年会議所の皆様におかれましては、これまで培ってきた組織力と行動力を遺憾なく発揮し、引き続き県政の推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。結びに、貴会議所のご発展と、会員の皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

山梨市 市長

竹 越 久 高



公益社団法人山梨青年会議所が創立から40周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、1973年の創立以来、今日までの長きにわたり、奉仕、修練、友情を信条にされ、地域社会への奉仕活動をはじめ福祉活動や青少年の健全育成活動等に積極的に取り組まれてこられました。私たちを取り巻く社会環境が日々変貌しているなかで、設立時の志は脈々と現在まで受け継がれ、「明るい豊かな社会」を実現するため、他団体などさまざまな分野の方々と交流し意見を交わし、日夜ご奮闘されている会員の皆さまには深く敬意を表します。その活動は本市発展にも寄与しており、ここに改めてお礼を申し上げます。

さて、昨年、東日本大震災並びに福島第1原子力発電所の事故は、多くの尊い命だけでなく平穏な暮らしをも無残に奪ってしまいました。震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、震災前の暮らしを取り戻すため、今なおご苦労されている方々にお見舞いを申し上げます。

この震災は、今までの我々が築き上げてきた物やお金に対する価値観、ライフスタイルについて、これを機会に今ここで立ちどまり、考え、見極め、そして必要に応じて見直すことの必要性を教えてくれたのではないかと、と各界の方々が発信しはじめています。

一人一人が自らに問い直し、答えとして見出された小さな見直しは、人と繋がることにより磨かれて大きな変革へと拡大していきます。国と地方との関わりが変わりつつあり、「地方の事は地方で」と言われる今日であります。

このような時代の流れの中で、皆さまが播いた小さな見直しの種がやがて立派に育ち、実を結び夢へと一歩近づきます。これからの明るく豊かな山梨市を築くためには、特に必要な事ではないかと思っています。多業種の方々を会員に持ち、「熱き心」を代々引き継ぎながらさまざまな夢を追いかけている貴青年会議所の役割は大きくかつ重要であると思っています。

会員の皆さまにおかれましては、これからも本市の福祉、経済、文化、青少年育成の向上のためご協力をお願いいたします。

山梨青年会議所の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご多幸を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

祝 辞

山梨青年会議所 シニアクラブ会長

藤 卷 和 哉



公益社団法人山梨青年会議所創立40周年を迎え皆様と共に心からお喜び申し上げます。

全国551番目の青年会議所として山梨市に生まれた山梨J Cが、創立当時の情熱や志を受け継ぎ、この間、地域の中心的な青年組織として多くのメンバーが集い様々な研修や事業を实践するなかで自らを磨きながら多くの先輩やメンバーを地域のリーダーとして輩出し、現在まで活躍されていることを誇らしく思います。

例えばJ C活動を通して多くの仲間と出会い多くのことを学ばせてもらいました。青少年サマースクールや市民祭り（ふゅーちゃー）など当時の事業が今もその理念が長く受け継がれ、青少年育成事業等は現在も主な事業として継続されていることはシニアとしても非常に嬉しく思います。

今の経済状況や社会情勢を考えると組織を維持し活動していくのが厳しい状況ではあると思われませんが、今こそ青年としての英知と勇気と情熱を持って、明るく豊かな社会を築くため力を合わせ山梨J Cの更なる発展が望まれるときではないかと思われます。私たちシニアクラブとしてもできる限り応援し協力しながら豊かな街づくりの目的に向かって共に歩んで行けたらと思います。

公益社団法人山梨青年会議所の更なる発展と会員の皆様の活躍を願い、創立40周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

公益社団法人 日本青年会議所
第 61 代会頭

井 川 直 樹



公益社団法人山梨青年会議所が創立40周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。創立以来、40年にわたる歴史を紡ぎ、常に時代の変化を捉え、地域社会の発展にご尽力されてこられました先輩青年の皆様のご功績に心からの敬意を表しますとともに、誇り高き志を受け継ぐ現役メンバーの皆様に心より感謝とお祝いを申し上げます。

日本青年会議所では、2011年に創立60周年を迎え、10年先をしっかりと見据えた俯瞰的な視野と意識変革が求められるなか、『己を律し、行動するJAYCEE「自立」と「共助」が調和し、「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が漲る社会へ』を2010年代の運動指針として発信いたしました。そして、本年は『呼び覚ませ 日本のプリンシプル!』のスローガンのもと、東日本大震災に対しての今、求められる復興支援はもちろんのこと、日本の構造的な問題と解決しなければならない課題に対し、日本の青年としての矜持を持って全国の同志とともに具体的な運動を力強く展開することで、自らの意識を変革し、市民の意識を変革してまいります。

「戦後」とよばれた時代に、決して諦めない国民の努力によってめざましい復興を遂げ、知恵と創意工夫により、奇跡と言われた高度経済成長を成し遂げたわが国が、国難とも言える東日本大震災を経験した今、「震災後」とよばれる新たな確かな時代を築くために、私たち青年会議所メンバー一人ひとりこそが、時代の先頭に立ち、変化を創り出す「変わらないために変わる」行動を起こしていかなければならないのです。

志を同じくする山梨青年会議所の皆様におかれましては、「Imagine～夢現の可能性を信じて～」をスローガンに掲げられた吉原誠理事長の卓越したリーダーシップのもと、創始の精神と紡いできた歴史を継承し、創立40周年を新たなスタートに、無限の可能性を輝かしい未来への確信へと導く、力強い確かな一步を踏み出されることをご期待申し上げます。

結びに、日本青年会議所は、全国のメンバーのため、各地会員会議所の発展のため、これからもいつもLOMの隣で運動を推進してまいります。「凜然とした誇りある国」日本の創造に向けて、ともに歩み続けることをお約束し、また、貴青年会議所が地域において最も頼られ必要とされる青年の団体としてご活躍され続けることをご祈念申し上げ、創立40周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝 辞 創立40周年に寄せて

公益社団法人 山梨青年会議所
関東地区協議会 第58代会長

杉 浦 誠



公益社団法人山梨青年会議所の皆様、本年創立40周年という輝かしい節目の年を迎えられました事を心からお慶び申し上げます。

貴青年会議所は1973年12月8日、国内で551番目となる青年会議所として設立されてから現在に至るまで、先輩諸兄の常に新しい事を追い求める類まれなる先見性と、次代の担い手としての大きな責任を自覚しながら、地域に根ざしたまちづくり運動を展開されてこられました。

また本年におきましては、公益社団法人山梨青年会議所 関東地区 山梨ブロック協議会会長として乙黒泰樹君を輩出する山梨県を代表する青年会議所として、めざましいご活躍をされてこられました。これらの輝かしい運動を受け継ぐものとして、市民と共通の生活基盤に立ったものの見方・考え方を基盤とし、若者らしく情熱から生まれる行動力をもって、引き続き山梨市民の皆様から共感を得られるようなファシリテーターとして、青年会議所運動を展開して頂きたいと思っております。

本年関東地区協議会は「変わらないために変わるサステナブルな関東の創造」のスローガンの下、組織が更なる進化を遂げるために我々が織りなす事業・運動がいったい誰のために何のために行うのかを明確にし、この組織が5年後10年後も無くてはならない組織として存在し続けるために、変わり続ける揺るがない意志を持ちながら運動展開しております。ぜひ山梨青年会議所メンバー皆様におかれましても、この山梨市において節目の年であるからこそ出来る「変わらないために変わり続ける運動」を執り行って頂きたいと心から思っております。

結びに吉原誠理事長率います公益社団法人山梨青年会議所の皆様が、創立40周年のLOMスローガン「Imagine～夢現の可能性を信じて～」の下、市民の皆様から真に必要とされる「輝かしい組織」として、更なる高みを見据え益々ご活躍をされます事を心からご祈念申し上げます。

祝 辞

公益社団法人 日本青年会議所 関東地区
山梨ブロック協議会 第41代会長

乙 黒 泰 樹



公益社団法人山梨青年会議所が創立40周年を迎えられますことを、山梨ブロック協議会全会員を代表致しまして心よりお慶び申し上げます。1973年の創立から40年という素晴らしい歴史を紡ぎ、地域社会の発展に尽力されてきた先輩の皆様のご功績に敬意を表すると共に、熱い想いと高い志を受け継ぎ運動を続ける吉原理事長を始めとする現役メンバーの皆様感謝とお祝いを申し上げます。

公益社団法人山梨青年会議所は、創立より山梨市のために多くの功績を残してきました。特に青少年育成事業やまちづくり事業における地域への貢献は目覚ましく、その活動は人々から高く評価されています。また山梨青年会議所は県内で初めて公益社団法人への移行認定を受けるなど、常に公益性の高い活動を意識すると共に、本年は吉原理事長の下、Imagine～夢現の可能性を信じて～をスローガンに掲げ、自分たちの成長と地域社会の発展のため、様々な挑戦を続けています。その活動は同じ山梨県内を活動エリアとする10LOMの青年会議所にも大きな刺激を与えていると感じています。

本年の山梨ブロック協議会では、「凛然とした山梨の創造」をスローガンに、凛然とした人材の育成及び凛然とした組織の確立に向けて運動に取り組んでいます。かつての日本には存在していた他人を思いやる心、社会に奉仕する心、そして自分たちの生まれ育ったこの国を愛する心、これらの精神性を取り戻すことが私たちにとって急務だと感じています。そのためには、現代に生きる私たちが日本人の誇りについて再認識し、「変わらないために変わる」覚悟を持ちながら、JAYCEEとして未来に向かって行動することが重要だと私は考えています。そして山梨JCからも山梨ブロック協議会に対し多くのメンバーに出向して頂くと共に、様々なブロック事業にも多くのメンバーに参加して頂き、山梨市だけでなく山梨県全域における運動の伝播に貢献して頂いていることに心から感謝を申し上げます。

結びに、創立40周年という節目を迎えた公益社団法人山梨青年会議所の皆様が、地域社会から求められる頼れるリーダーへと成長し、高い志と気概を持って地域の発展のために凛然と邁進していくこと、そして山梨青年会議所が地域から最も必要とされる青年団体として活躍されることを心よりご祈念申し上げ、創立40周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝 辞

スポンサーLOM
一般社団法人 甲府青年会議所 第61代理事長

西 川 一 徳



公益社団法人山梨青年会議所が創立40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

1973年に誕生してから40年、目まぐるしく変化する日本そして地域の中で、その時代を乗り越え歴史を築かれてこられた諸先輩方そして現役メンバーの皆様に敬意を表します。

私ども一般社団法人甲府青年会議所も2011年に創立60周年を迎え、今年度は「一心響音」のスローガンのもと、さらなる未来に向け新たな挑戦を始めたところであります。

さて、昨年3月11日に東日本を襲った大震災によって、日本は経済的にも社会的にも一層の大打撃を受けました。また、少子高齢化を始めとする急激な社会の変化、将来への不安や価値観の多様化という厳しい環境に置かれているのが現実です。しかしながら、社会情勢を言い訳にしては何事も前に進みません。社会の変化や厳しい状況はいつの時代にもあります。このような状況下だからこそ、私たちJCは、単に「この時代をどう乗り越えるか」と考えるのではなく、「どのように時代を切り開いていくのか」を胸に刻みながら前に進んでいくことが求められております。

こんな時代だからこそ、「明るい豊かな社会の実現」の為に高い志を持って、メンバー一人ひとりが責任を自覚し共に切磋琢磨し成長できる組織を目指さなければなりません。ロムとロムとの関係も同じであります。新しい時代に向けて、同じ志を持った仲間として共に活動して参りたいと考えております。宜しくお願い致します。

そして、本年公益社団法人山梨青年会議所は「Imagine～夢現の可能性を信じて～」のスローガンのもと、吉原誠理事長を先頭に地域に密着した活動を進められております。この記念すべき40周年に公益社団法人山梨青年会議所の皆様が、多くの先輩方が培われた熱き心を受け継ぎ、「夢」を「現実」へと導くべく、さらなる進化をされることを心から期待しております。

最後に、公益社団法人山梨青年会議所のなお一層のご発展とメンバーの皆様方のご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

山梨JCのあゆみ



<沿革>

- 1973年11月23日 山梨青年会議所 創立総会
- 1973年12月8日 社団法人日本青年会議所より 第551号として入会承認
- 1974年3月24日 認承認伝達式実施
- 1981年12月22日 社団法人山梨青年会議所として登記
- 2011年12月26日 公益社団法人山梨青年会議所として登記

1973・74年

初代・2代理事長

金井和彦



■ 当時を振り返って

山梨青年会議所の認承認伝達式について

1973年頃より甲府JCから誘いを受け市内の発起人代表8名が何回かの会合の末、設立の準備に入り、同年、11月23日創立総会式典を市役所で行いました。

1974年の事業は山梨市に誕生した青年の団体として、地域社会のリーダーたるべく自己修練を基調にした運動を展開する中で、社会に向けての活動をできる限り取り上げていく。認承認伝達式に全体で力を合わせ、山梨でなければ出来ない式典を企画、準備していく。1975年に入り準備を進める最中にオイルショックによる緊急事態宣言が日本JCよりあり大変な年であったが、3月24日ちどり湖畔農事センターにおいて認承認伝達式が盛大に行われた。当日は山梨市長、日本JCの役員の方々をはじめ、遠く群馬、栃木、埼玉、東京、神奈川からも先輩JCが集まって門出を祝って頂きました。

一年目の事業は山梨市民サイクリング教室を開催し（笛吹川河川敷往復17.5km）自転車と交通安全について日下部署職員より講義を受けました。誕生一年目JCとしては、このサイクリング教室を全国統一事業の一環として取り上げました。

思い出はたくさんありますが、創立式典の準備の苦労は忘れられない思い出です。

■ 主 な 事 業

- 1973年：設立総会（11月）
- 1974年：認承認伝達式
- 第一回献血事業
- サイクリング教室

日本JC設立を記念してのJC統一事業に当ROMでは青少年の交通安全を目標に当事業を行った。

市内の小学校8校、中学校2校から少年少女500名、又青少年育成会の指導者100名を加えて600名による笛吹川サイクリングロードでのサイクリング、及び万力林クリーン作戦は多大の成果を収め後の交通少年団結成への大きな導火線となった。

1975年 第3代理事長 坂本 勝 明



■ 当時を振り返って

冷戦終結といわれてからまだその影が見え隠れしている昨今、その社会情勢の中での青年会議所のあり方を考えるとき、どうあるべきかの議論はそう簡単に出せない。ただニュースでアフガン難民の苦悩の姿などを目の当たりにするとき人類の共存共栄を自然に受け入れられる一人一人の心の形成に役立つさやかな行動でも継続していける青年会議所活動を、と思う。そして、現役メンバーの皆さんは、想像も出来なかった不況の中、まず会員同士で情報を出し合い、協力し合って乗り切る底力を発揮してください。人の心づくり＝青年会議所といわれるような事業を。きっと仲間の拡大につながると思います。

■ 主 な 事 業

- 第4回山梨ブロック大会主管 1975年3月23日
「人間への期待、J Cで創ろう心の中を」のテーマでオリエンテーション・教育問題・経済問題と四分科会で十分な討議がなされた。
- 山梨市議選個人連続演説会
山梨市議選初の試みとして様々な障害を乗り越えて市民の後押しを力に立候補者全員の参加による演説会を実施した。多方面から大きな反響があり、好評を得た。
- 山梨ブロックソフトボール大会で優勝 1975年9月21日
県下J Cを勝ち抜いて優勝、会員同士の結束が固く大いにハッスルした結果だった。
- 交通少年団第一団結成 1975年12月8日
魔の国道と呼ばれていた140号線の交通事故を少なくしようと会員や地域住民の要望で交通少年団の結成をした。このことで大いに啓蒙された。

1976年 第4代理事長 佐野 十三雄



■ 当時を振り返って

未来を託す青少年一市内の小学生、中学生達に「住みよい山梨市」をテーマに、市、学校関係者の協力を得て、市内10校の生徒より作文を募集したこと。作文の数は400通を超えるものでした。内容は今日でも重要視されている自然環境の提言が多く、まちの活性化等の意見も見られました。審査は市役所に於いて市、学校関係、J Cのメンバーで行われ、数といい、秀作ぞろいで大変苦勞をしました。優秀作品の内容については市の関係者に提言を申し上げたところです。

新設LOM賞一創立3年目ということで当J Cとしてこれにエントリーをすることとなり会員が一丸となって取り組んだ結果、サイクリング教室・交通少年団（山梨小学校）設立等認められて全国大会に（浜松市）に於いて特別賞を受賞したことです。なお、交通少年団はその後の活動が認められて全国大会で表彰を受けております。

■ 主 な 事 業

- 山梨市長を囲む会
- 山梨市の未来を考える作文募集
今後どのような都市づくりを目指したならば、より健康的で文化的な生活が営めるだろうと、市内の10校の小中学生の考えを作文として応募した。応募428作品。多数の生徒が取り上げた問題は駅前開発、通学路整備、下水道等で潤いのある明るい都市を夢見ていた。
- 山梨交通少年団
山梨小学校高学年の80名余で編成され、訓練には当J C青少年委員会と地域の現時会が当り自転車安全教室、映画会、討論会、また広く市民に呼びかける市内安全パレード等行っている。このような交通安全教育が認められ地区安全教会署長賞を山梨県交通対策推進協議会から表彰を受けると共にこのJ C活動は日本J Cにも認められ新設青年会議所賞特別賞を受賞する原動力となった。
- 草の根文化の見直し
日本J C統一事業であり当LOMでは中村昌訓君を実行委員長に、7つの班で編成したチームがそれぞれの地域の埋もれた文化をほり起こそうという事業だった。今日のような生活をしている我々には昔の人々がどのような生活を、また考え創ってきたかを、自分の足で歩き、目で確かめ耳で聞くことが出来た。

1977年 第5代理事長 中村昌訓



■ 当時を振り返って

1977年(S52年)、市民の求めているものは何か。それについてアクションをと。時、恰も東山梨総合選抜が議論されている時15の春を泣かすな等といわれ中学生の高校全員入学が最も望ましいと言った風潮でありました。そこで市民、中学生、高校生に対し総合選抜の是非を含めアンケートを行いました。1500部に上回る回答を青年会議所らしく全員で何日もかけ、深夜迄手作り集計をして専門家の意見を拝聴しながら分析し、更には公開討論会を行いました。この時の実感として高校へ行きたくない生徒、行く資格のない生徒(高校生になっても授業についていけない、素行に問題がある者)まで行かされます。これは非常に無駄なことで本人にとっても気の毒なことと感じました。学校教育、家庭教育、地域社会の係り方に大きな問題があると思われ知らされた次第でした。

もう1つ、草の根文化研究特別委員会を設置、野に埋もれた石仏の調査発掘を小学生、中学生及び地域の古老と共に行い、まちの歴史と理解を児童、生徒共に深めたことは大変意義がありました。

■ 主な事業

○市民アンケート、教育問題討論会

市民1000部、実際の教育の場にある山梨南北両中学校、日川・山梨両高校の生徒にも500部のアンケートを作成、8月配布回収、9月に集計・分析を行った。これをもとに10月22日6分科会の開催と各種教育関係者の出席をえて、公開座談会を行う。市民からの反響も大きく十分な成果があった。

○さよならブロック協議会 主管

対外的にはサヨナラブロック協議会とゴルフ大会の主管。対内的には会員の心と心を結びつける各種行事を行いました。

○1泊LD道場

会員資質向上のために！清白寺住職、本間禅献先生を講師に、晩秋の藪温泉で、会員同志の心のふれあいと精神力の鍛錬を目的に1泊LD道場を終えた。

○山梨市長を囲む会(1月)

○養老院慰問もちつき大会(2月)

○山梨市民会館内事務所開設(9月)

1978年 第6代理事長 窪田勝彦



■ 当時を振り返って

- 1) 海外青年招聘事業 5泊6日 バングラデッシュ男性/インド女性
通訳 故清水良夫、佐藤貴史
- 2) 5周年記念式典
実行委員長 斉藤親 記念講演 講師 高田良胤
- 3) 関東地区褒章委員会 特設LOM特別賞受賞

■ 主な事業

○関東地区交通安全推進優秀賞受賞(浦和市 関東地区会員大会)

過去三年に亘る山梨小学校交通少年団の結成の経過と結団後の運営の資料をつぶさに集録。地域住民とJCが一体となった活動は多方面から高い評価をうけ交通安全を願うメンバーの努力は見事に結実した。

○自衛隊体験入隊(指導力)

規律訓練が主に2泊3日で行われた。自衛隊のあり方を理解した。体力の限界に挑んだメンバーの士気は益々高揚、継続事業として年々行うことを全員一致で決議した。

○5周年記念式典並びに記念講演

市民会館大ホールにて記念式典を挙げる。5周年記念誌の編纂、又薬師寺館長高田好胤氏による記念講演「日本人らしく」は一般市民に呼びかけ日本人の心のふるさとを探った。

○養老院慰問

3回目の継続事業で本年は趣向を凝らし、メンバーのギターにあわせて喉自慢大会を行った。YBSラジオでこの様子は全県下に放送された。

1979年 第7代理事長 雨宮康夫



■ 当時を振り返って

メンバーは経済人であるので自分の仕事を将来に向けて日々築き上げていくべきだと思います。そのためにもJCを通じて経済人としての知識の吸収、人格の形成への訓練を続けていくべきだと思います。

自分達の住む街をより豊かな街にするため調査しメンバー全員が話しあって事業を決定し、全員で成功させていくべきだと思います。その事業が継続しなければならない場合には行政かその他の団体等に出来るだけ引き受けてもらえるように努力すべきだと思います。

そうすることで、また次の事業、活動が進められます。

■ 主な事業

○ 新入会員6名の拡大

入会者 堀内良一君 小林健一君 中村照人君 日原和仁君 植野一保君

○ 市議選の個人連続立会い演説会の開催

実行委員長 斉藤忠臣君 加納岩小学校講堂（市民集会所）において全候補者が参加され開催。

○ 献血推進協議会の設立

平成13年9月に厚生労働大臣表彰授与されたことを聞き大変うれしく思った。

○ 市民アンケートの実施

市民生活における問題点、市民が何を望んでいるか等をアンケートした。
回収数465件をもとに「明るい豊かな街」をつくる為の小冊子を発行。

○ 市民オリエンテーリングの実施

○ 養老院の慰問、献血の推進、議会の傍聴

1980年 第8代理事長 斉藤忠臣



■ 当時を振り返って

山梨青年会議所も、創立以来8年、会員諸兄の、青年の勇気と情熱でJC活動が、社会的に認知を受けるようになってきました。

さてこのような状況の中で、この年は、外部的には、当JCとしては最初に中村昌訓先輩が、山梨ブロック協議会会長として就任されました。私達は、ブロック会長出向ロムの会員として全面的にサポートすることを重点目標に掲げて、ブロックに関東地区に日本JCにと活動を広げ、新しい友人を作り、貴重な経験の中から、今後のJC活動のレベルアップのためのパワーを得ました。

内部的には、現在の状態に満足せず、活動のマンネリ化を防ぐために、「JC活動の原点に帰る。」を合言葉に、会員の資質向上のために、LDやCDの手法の勉強会を行いました。

大変に忙しい一年ではありましたが、会員の皆様の友情と協力により、楽しく、清々しい理事長経験をさせていただき、心より感謝します。

■ 主な事業

○ 社会開発委員会

講師例会（明和工業㈱社長 小石和典氏）省エネルギーについて

講師例会（鶴田栄一氏）県議会報告会

○ 企業問題委員

フリーターキング 「皆で語ろう私の経営」・「80年代これからどうする？」

○ 会員開発・広報委員会

講師例会（中村太郎氏）国会報告会／講師例会（内田敏雄氏）新開の作り方／家族例会 会月開発
山梨JCこの一年／ビデオによりこの一年を振り返る 広報／卒業式・納会

○ 青少年開発委員会

講師例会（望月清賢委員長）YDDについて／講師例会（上野喜延氏）

○ 指導力開発委員会

LD道場総まとめ、座禅1泊例会（テーマ「克己」）

○ 総務・財務委員会

総会・市長を囲む会、公式訪問、3LOM 合同例会、臨時総会、出向者報告会、総会

1981年 第9代理事長 神 宿 幸 男



■ 当時を振り返って

燃える！山梨市という湖に大きな一石を投げ込もう…をスローガンに出発した一年だったが、メンバー一同が大いに燃えた年でした。

前年市内はし尿処理場で大いに揺れました。そこで12月に古屋俊一郎市長に対談を申し入れ、1月の青年会議所新聞で、その内容を紹介、し尿処理場の必要性を市民に訴えました。4月、市の要請で信玄公祭りに参加、ほぼ全員のメンバー（45人）が参加、団結力の強さを実感しました。市内パレードの後初めて清風園を訪問、お年寄りに歓迎されました。9月には教育問題討論会を開催し、教育関係者から注目されました。この討論会の為に小中学生の実態を調査しようと、後屋敷小の武藤先生の指導を受け、数ヶ月かけてアンケート内容を検討し、市内の小中学校に配布しました。集計は雨宮康夫君の好意で会社のコンピューターで分析しました。それをたたき台に、教育問題討論会が開催されました。12月には社団法人山梨青年会議所が誕生しました。丸茂和夫君が中心になって半年以上もかけて研究議論してきた結果、県から認可がおりたものでした。各事業を通じて、次の山梨を担う人材を育てたい…を目標に一年が過ぎたが後年、日本JＣ広域まちづくり推進会委員長の三森智文君を始め、多くのメンバーが内外で活躍してくれた事は、私の一番の喜びでした。

■ 主 な 事 業

○ 青少年アンケート「はばたけ5・6年」

最近の家庭内暴力・校内暴力とマスコミで騒がれている中、青少年問題を取り組む上で、今の子供達の動向を知ることが大切ではないだろうかと考え、市内の小学生5、6年生約1000名を対象にアンケート調査の実施に踏み切った。1月下旬よりアンケートを作成し3月配布・回収、4月に分析、5月担当例会で参加頂いた教員の皆様にアンケート内容を知って頂くと共に指導育成方針の話、説明をお聞きした。

○ 燃える山梨 JＣ 甲州軍団出陣

○ 草の根文化運動

「山梨の歴史・文化を正しく伝える」「郷土愛の心を子供達に育てる」「連帯感を持たせる」の3点を骨子とし各地区リーダーを中心に実施。410余の児童の参加をえると共に教育関係者、住職、地域長老等の温かいご協力のもと、充実した事業にすることが出来た。

○ 教育シンポジウム

青少年委員会が実施したアンケートの結果を精密に調査研究したものを基に計画を総合的にまとめました。内容は参加者が普段着のまま本音で話し合いが出来、メンバーもその中に入って一緒に考え、悩み、難しい問題を少しでも解決の方向へ持っていった。

1982年 第10代理事長 古 屋 宝



■ 当時を振り返って

まちづくり市民対話集会（10周年記念事業）
一般の市民の皆様に参加して頂いて共に山梨市の総合未来について話し合ったことです。

■ 主 な 事 業

○ THE RIJIKAI ロバート議事法学習会

理事会の議事録を修正、ロバート議事法を大いに活用し効果的な会議の実践を議事進行、質疑応答を繰り返しながら模擬理事会を進行した。

○ 82山梨市青少年サマースクール

7月31日から8月1日まで八ヶ岳学校寮に於いて開催された。集団生活を通じて、青少年が協調や自律の精神、リーダー意識、道徳心を養うのが目的だが人づくりを通じて街づくりを目指すJＣの理念集大成の事業だった。参加者 児童・生徒36名。

○ 10周年記念式典挙行

1月より3月までプランづくり、3月より6月まで実行委員会の組織作り、7月より9月まで準備予定をつくり活動した。各事業部会に分かれて準備を進め無事に10周年記念式典を成功に収めることが出来ました。特別事業として市民対話集会を開催した。

1983年 第11代理事長 齊藤 徳彦



■ 当時を振り返って

「原点からの出発」をテーマに10年の歴史を踏まえて未来へ向けての橋渡しとして、社会環境も変化しつつある中でJC活動自体も変化を求められる時代のスタートとして、もう一度JC活動の原点に帰り運動の方向性を全員で勉強し考える年としました。年間22単位のカリキュラムにより開講されたJCスクールは「教えることは学ぶことである」の意を以って内部講師を多用し年間10回開講されました。

この年は統一地方選があり、市議会の折りの立候補者の個人連続演説会の実施は特別委員会でも対応し紆余曲折もあったが強引と言われながらの実施と成功は思い出深い事業でした。

「第2回山梨市青少年サマースクール」は愛宕山少年自然の家で郷土の歴史を学びながら、自立意識とリーダー育成トレーニングは意義あるキャンプとなりブロック褒章の最優秀賞を受賞しました。

■ 主な事業

○ 第2回青少年サマースクール

愛宕山少年自然の家において58名の参加者を集め開催された。

この事業はブロック褒章最優秀賞に輝いた。

○ JCスクール（2月～11月）

・JC基本理念、宣言文、綱領解説・理事長経験者、シニアによるJC談・JC運動の今後具体的に目指す物・3分間スピーチ・会議の進め方・ロバート議事法のマスター・社会開発（CD）を基本的に理解してもらおう・まちづくりとは・LD、LIA個性型リーダーシップの体得・個性的リーダーシップの体得II

1984年 第12代理事長 米倉 仁



■ 当時を振り返って

28年たって、ひさしぶりに12代理事長の時に、どんな事業をしたか、考えると随分年数がたったなあをつくづく感じました。たしか理事長の前の年に、ひょんなことから日本JCの社会開発の副委員長をするはめになり、その時の社会開発の委員長がのちの会頭になった河村さんでした。理事長になっての1月に社会開発委員会で講師を招いて街づくりの勉強をしたいとの話があり、前年度で同じ副委員長で本年委員長の酒井さんと前年委員長で本年度日本JC開発室長の河村さんと呼ばうという話になり、2月例会におよびして「街づくり」への具体的な手法について講演をしてもらったことを思い出しました。

その時は忙しかった。段取りと人集め、呼んだからには人が少ないとまずいということで、この年はメンバー62名で日本JC出向者が5名、ブロック出向者が13名、関地区2名で総勢20名が出向していた時で、皆よく出向したなと思います。皆で飲みに行くとすぐ街づくりの話になり夜遅くまで飲み明かす事が、度々有り、若かったなあをつくづく思います。また、6月に山梨ブロック会員大会を主管し、歓迎の挨拶を必死で暗記した事を思い出しました。今でも、冷や汗が出る思いをした事を思い浮かべると、ぞっとします。また懇親会でジャズのフルバンドを呼んで記念講演で講師をしていただいた（株）キトーの鬼頭社長が喜んでくれた事を思い出しました。振り返ると多くの事業を皆が進んで行いJCを楽しんだ1年であったと思います。また時のスタッフやメンバーに大変お世話になったなあをつくづく感じました。

■ 主な事業

○ 第3回青少年サマースクール

共同心、自立心の育成また、交流の場として八ヶ岳少年自然の家において開催された。8グループに分かれての立体凧づくり、冒険ハイク（フィールドアスレチックの変形）、キャンプファイアー、炊事等のプログラムを消化した。

○ ブロック統一事業 親子写生大会

参加者152名を集め、春の一日親子で語らいながら、自分たちの住む町を描いた。

○ 居酒屋の青春 一泊例会

○ 山梨市の航空写真

山梨市の航空写真を取り、市内の生活環境指標を作る足がかりとして製作した。山梨市の様子が手に取るようにわかり、素晴らしい作品になった。

1985年 第13代理事長 佐藤 貴史



■ 当時を振り返って

NEW YEARS WALK 1月初旬山梨市民会館より石和温泉まで寒さをもとせず、青年会議所メンバーと歩き旅館で風呂に入り一緒に酒を飲み騒いだことです。

また、林真理子講演会を主催し市民会館大ホールをお客さんでいっぱいにしたこと、理事長挨拶を皆さんの前でやらせてもらったことです。

気持ちよかったです。

■ 主な事業

○ 林真理子講演会「ふるさとを語る」

市民会館大ホールに超満員の聴衆を集めた。テーマは青春、ふるさと、明日への活力、世代を問わず幅広い話題の楽しい講演会になった。

○ 野外コンサートの開催「ふれあい街づくり・音楽・青春語らい野外コンサート」

万力公園噴水広場に特設ステージを作り実施したアマチュアバンドの野外コンサート。

○ 山梨日日新聞折込にて「青年会議所新聞」を発行

○ 第1回山梨J.C旗争奪山梨地区少年サッカー大会

○ 第4回青少年サマースクール

大自然の中でのびのびと体験学習を行わせることを目的に開催された。

○ 宿泊例会「居酒屋の青春パート2」

○ 「生活環境指標」についての話し合い

1月より資料集めを開始、3月からの山梨市の農業・商業・工業の実態調査及び分析、そして10月のまとめと通年かけてまちをよりよくするための話を進めた。

1986年 第14代理事長 新谷 一男



■ 当時を振り返って

1986年第14代理事長時代を振り返りますと、まず、恒例の京都会議の夜の京都での思い出は良い経験になりました。生涯二度と出来ないと思います。

事業としては、エアロビクススクール、男の料理教室、ゴルフスクール等ユニークな事業を行いました。また、全国6万人例会など日本J.C主催の統一例会等もございました。どの例会も100%出席を目指して例会を行っていました。

この年は、山梨県で秋の国民体育大会が行われJ.Cメンバーもいろいろな部署で参加協力をいたしました。

■ 主な事業

○ 市民音楽祭

「水と緑と太陽のまち山梨市」をキャッチフレーズに万力公園を舞台に繰り広げられた。又同時に開催されたチャリティ募金では沢山の方々の心温まるご協力を頂いた。

○ 親子写生大会

自然の中、親子で会話しながら自分達の町にある公園を一枚の絵に収めた。自分達のまちの理解と親子のつながりを深める。

○ 3世代交流ゲートボール

ゲートボールを通しての各世代の交流、J.C活動の理解をしてもらえた。

○ 座禅例会（清白寺）

15周年特別室は本年度のあり方を検討、従来、我々が××周年記念として見聞するものは、いかにも実の無いものが多すぎ、会員の貴重な精力、金銭を費やすことは意義少なとして排除する。周年事業のための事業ではなく事業は当LOMが例年行っている延長線上にあるものとし、15周年を機に益々当LOMが発展することを期す。(本間愛教室長 報告書より)

○ 指導力セミナー（講師 神宿幸男氏）

宿泊例会・LAT会議を行い翌日早朝、春日居町の山にメンバー全員で登った。

1987年 第15代理事長 藤 卷 眞 史



■ 当時を振り返って

15周年時の理事長をさせて頂きました。日本青年会議所では街づくり関係の事業が中心でした。当会議所でもならい近未来の誇れる山梨市のビジョン作りに取りかかりました。山梨大学工学部北村真一教授を学識経験者としてアドバイスを頂きながら構想を練り上げました。一方、未来への使者である子供たちの夢見る未来の街の作文・構想画を募集し両者を加味しながら“5万人都市をめざして！”の小冊子を作成。関係機関への提言書として配布、大いに論議を呼びました。結局、この事業が15周年のメイン事業になりました。

■ 主 な 事 業

○小冊子「5万人都市を目指して」発行

山梨大工学部助教授の北村先生や山梨市在住の細谷先生らの講演を聴いたり、手助けを借りながら、また、3月に現地調査にいった長野県佐久市中込商店街の話を参考にしつつ、山梨市の現状をふまえた小冊子を各委員会の協力を得ながら発行した。

○市会議員選個人連続立会演説会

市民会館があふれんばかりに盛況であり、かつ会員の望月氏、本間氏がみごと上位当選をはたし、続く県会議員選でも中村氏も当選を果たし3人の議員メンバーが誕生した。このことにより行政とのパイプが更により太くなり今後の活動に期待がもてた。

○15周年記念式典

「山梨市5万人都市を目指して」のテーマのもとこの街づくりを推進するため市民にまちの将来像と都市構想、文化教養構想等盛り込んだ記念誌を作成、配布。

○J C旗争奪東山梨少年サッカー大会開催

○第1回青少年作文コンクール「おしゃべりまつり」開催

1988年 第16代理事長 堀 内 良 一



■ 当時を振り返って

「明るい豊かなまちづくり」を行うために、それぞれのメンバーが問題意識を持って、熱く、そして活発に活動していました。

そんな中において、前年度、万力公園噴水広場を利用して行われた、「ふれあいコンサート」の規模をさらに拡大し、市民総参加のまつりを計画しました。これについては、メンバーの意識の統一、参加団体の調整、ネーミングの決定等何もかもが最初から作り上げることばかりで非常に大変でした。

しかし、メンバー全員が「若さと情熱」を持って、一丸となって取り組むことによって、一つ一つの問題を解決し、「まつり」の成功へと結びつけました。確かに計画から実行するまでは、大変な苦労が一人一人に合ったと思いますが、個々の力を合わせて、気持ちをひとつに出来ることにより、素晴らしい力となるものだという事を痛感しました。

今このような時代だからこそ、メンバーが力を合わせて、生き生きした「まちづくり」活動を行ってほしいと思います。

■ 主 な 事 業

○サマースクール

前年の10月より骨子の作成にかかり元旦のJ C対外誌にPR。“集まれ、21世紀に翔く子供達、君はこの夏変身する”をテーマに実施された。特徴として前回5回と異なり夏のキャンプ前に事前学習会を行ったことで、この中で児童達が自分達で食事献立調理方法を決定した。また移動にはJRを利用、時刻も児童自身が決定した。

○山梨市民まつり ふゆーちゃー88 未来みつめて

峡東の中心都市としての山梨市をPRし、改めて見直す機会とし、全市民が力を合わせ汗を流し、郷土愛を育むことを目的として前年10月より市内3団体（J C・商工会青年部・青年団協議会）を中心に準備を進め、6月7日に実行委員会を立ち上げ、8月14日事業を無事終了した。のべ5万人を動員した内容はネーミング募集から始まり、多彩な企画イベント、企業出店コーナー、フォトコンテスト等で真に市民のためのまつりだった。

○J C旗争奪サッカー大会

1989年 第17代理事長 古屋弘和



■ 当時を振り返って

～出会い・感動・友情～

(社)山梨青年会議所40周年おめでとうございます。

私は、26歳で地元の先輩の勧めで入会いたしました。当時は、東京から帰ってきたばかりで、消防団への入団、商工会青年部への入部等若い私にとっては、忙しい毎日でありました。

このJ.C.の入会が今後の私の人生にとってかけがえのない宝物となっていきました。入会当時の理事長は私が今までに出会ったことのない「日本の侍」のような、強い印象を受けたことを今でも覚えています。J.C.の入会でたくさんの友人ができ、たくさんのことを学び、協力して事業を達成できた喜びは、私自身を成長させてくれました。

J.C.活動に燃え、その勢いで仕事にも全力で取り組み、充実した日々を送ることができたことは幸福でした。日本J.C.への出向で私のものの考え方を変えたのも素晴らしいJ.C.マンとの出会いでした。私の人間形成を根本から変えたJ.C.の今後の発展をお祈りすると同時に、私自身の向上心を忘れず前向きに生きていきたい。一生感動・一生青春・一生J.C.シニア！

■ 主な事業

○第2回山梨市民まつり ふゅーちゃー89「夢のなかへ…」

一番思い出に残る事業で、まちの為に尽くす運動であり、自らのまちに熱き想いを寄せ自らが汗し、涙する行動の積み重ねが友をつくり、仲間を増やし、除々にその輪を広げていく運動だった。1月より連夜の準備を開始し8月13日開催された。晴天に恵まれた万力公園の会場で行われた。5万人の大合唱をはじめ、国際交流広場、大飲食街など盛沢山な催し物やコーナーなどで、子供から大人まですべての参加者が満足し楽しめたまつりだった。また他のまちにアピールできる山梨市の顔的まつりになっていった。

○1泊例会 居酒屋の青春

多数のメンバーの出席により夜遅くまで盛りあがった話合いが行われ、メンバー相互のコミュニケーションが確立できた。

○親子写生大会

万力公園において100名余りの参加者を集め開催した。

○サマースクール

○J.C.旗争奪サッカー大会

1990年 第18代理事長 三森智文



■ 当時を振り返って

原点に戻ろうを念頭に歴代理事長経験者に例会でご講演いただいたことが、一年を通じて、勉強になったことを思い出します。

また関東地区大久保博之会長（彼とは腐れ縁）を招いての例会が開催できたこともうれしかったです。この年は結構対外的な事業に参加したことも多かった年でした。

あれから22年も経過したんですね。結構、理事長職を楽しませてもらいました。

■ 主な事業

○第8回サマースクール

「大きい想い出みんなで創ろう」をテーマに、子供達が将来に向かって社会を大きく見ていけるような、自立心をもった、優しい忍耐力のある人間味あふれる青年に育ててほしいという願いから、メンバー全員の協力により成功を収めた。この事業は山梨ブロックの褒章にエントリー、優秀賞に輝いた。

○20周年にむけて

理事長経験者のシニアを招いて、例会の後半に講演をしていただきオリエンテーションタイムを実施した。100%出席例会だった。

○第3回山梨市民まつり ふゅーちゃー90について

フルーツパーク構想、140号線の道路問題、ヤオハン出店に対しての商店街の対策、これからの地方分権について等の質問事項に対して、三枝市長に講演頂いた。

○講師例会 講師関東地区会長大久保博之君

塩山J.C.との合同例会で、峡東地区のまちのアイデンティティ、J.C.のアイデンティティ、自分のアイデンティティについて、水戸J.C.を例に挙げながら講演頂いた。

1991年 第19代理事長 古屋泰仁



■ 当時を振り返って

当時を振り返ると、すばらしき多くの先輩方から色々と勉強させて頂き、厳しくそして温かく見守っていただきました。出向した仲間からも情報収集したり、日本J.Cの出版物をはじめから読み、委員会や例会、宿泊例会等でみんなで議論したものでした。

それらのエキスを結集して、山梨市民まつり「ふゆーちゃー」をすることにより、万力公園の使い方を一変させ、市民に定着させる事が出来ました。今も続く「万葉」の文化の香りのする街山梨市であり続けてほしいと思っています。

経済情勢が厳しい昨今ですが、青年としての気概を忘れずに、今後も青年会議所運動が続くことを願っています。青年会議所運動の更なる発展を祈りながら。

■ 主な事業

○ 第4回山梨市民まつり ふゆーちゃー91

市民総参加によって、市民が一体となり成功させようという機運のもと、自分たちの街を見直し、また地域住民の相互理解を深める機会になればと考える。前夜祭には「ニモ」という映画を野外鑑賞し、メンバーが模擬店を出店、まつりを盛り上げた。

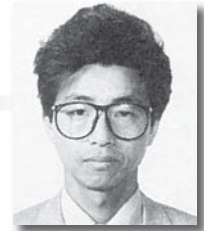
店を出店、30以上あるコーナーイベントのなかでもてるてる坊主等マスコミに取り上げられることが多く、ふゆーちゃー自体への関心、知名度が広がった。また、イベント内容もより街づくりを意識したイベントを取り入れ誰もが参加でき、皆で作るまつりのPRに成功した。

○ 第2回青少年作文コンクール

○ ブロック統一100%例会

○ 湾岸戦争環境保全キャンペーン募金

1992年 第20代理事長 古屋為久



■ 当時を振り返って

事業に取り組むメンバーの一人一人の顔が、一番の思い出です！
みんなが輝いていた！

■ 主な事業

○ 第5回山梨市民まつり ふゆーちゃー92

「万葉ロマン」をメインテーマに万力公園にて開催された。

○ 20周年記念事業“風の子大集合”PART I、PART II

子供達の「ほのぼのとした感性」を見出すことを目的とした例会。

昔の遊び（たけぼうきづくり、やきいも、竹とんぼ、かくれんぼ等）を通じてほのぼのとした感性を呼び戻し、心の豊かな子供達を創ろうという意図また山梨の民話に詳しい上野さんからお話を頂いた。参加者164名を集めた。

○ 日下部教会牧師 講師例会

○ 20周年記念式典・講演会・まちづくりシンポジウム

新たなるJ.Cの可能性を探るため、“夢、愛、豊かな心”をスローガンに記念式典を開催。記念講演会では丸山浩路氏による講演会を実施、“出会い、ふれあい、感動”のテーマで素晴らしい講演をして頂いた。また、まちづくりシンポジウムはパネラーに出島二郎氏、長沢忠徳氏、阿部副会長、古屋理事長を迎え活発な意見交換が行われた。

○ 創立10周年記念誌発行

○ 日本青年会議所地域応接室広域まちづくり委員会委員長に三森智文君を輩出。

ロム全員でバックアップを実施した。

1993年 第21代理事長 松 永 悟



■ 当時を振り返って

記念誌発行に当たり、基本資料、事業報告書を再読しました。年初37名、新入会員6名、卒業生6名。事業を見れば、6回目のふゅーちゃー93、第9回サマースクール、AIDS勉強会、櫻井よしこ講演会等々。一番の思い出はふゅーちゃー主催移管論とJC主導開催論の午前1時過ぎまでの第1回理事予定者会議の議論が懐かしい。次に2年ぶり9回目のサマースクール、子供たちの笑顔、うれしかったね。楽しかった。21年目にして二世会員の入会が実現しました。その1人は斉藤雄太次年度理事長。(31代理事長としてご活躍ください。)そして、理事長経験者3名を含む6名の卒業式。シニア来訪者100名以上の大卒業式、感激しました。

追記(1) 年度末決算大黒字。事務局移転もあり、長机の購入、FAXの入替、電話回線の増設。両監事に感謝。

(2) 前年度20周年。歴代理事長の諸先輩よりプレジデンシャルリースをいただきましたが、卒業式に一度つけただけで、次年度へ申し送りました。宝の持ち腐れでごめんなさい。

■ 主 な 事 業

○ 第6回山梨市民まつり ふゅーちゃー93

地域づくり運動の一環として、新たな価値あるスタートとして位置付け、エコロジーについて楽しく参加して楽しく理解し合える、一本化した自然環境運動を、催し物として開催した。

○ 阿部芳三講演会

(社)日本青年会議所監事阿部君を講師に招き阿部君自身が体験したJCのまちづくりを講演いただいた。地方が生き残れるまちづくりへのJCの取り組み方をメンバーが理解した。

○ 第9回サマースクール

サマースクールに関してStep-1～5まで5回開催した。1ではメンバーのための勉強会。2・3では参加する子供たちの仲間意識を育てながらサマースクールの準備。4では八ヶ岳少年自然の家において、第9回サマースクールが開催された。そして最終step-5では万力公園において総括として目的である“郷土愛”の達成の確認をした。

1994年 第22代理事長 鶴 田 順



■ 当時を振り返って

1988年、世の中バブル景気のころ、全国各地で「町おこし」の為にイベントが行われていました。山梨青年会議所も商工会青年部、青年団、ボランティア協会をはじめとし多くの団体の協力を得て、県内でも屈指の素晴らしい万力公園全域を使って、今までこの辺にない規模の手作りのお祭り「第一回ふゅーちゃー88」を実行しました。

実行するに当たり、地域の活性化に結びつけるまつりについての勉強会からはじめ、計画、立案、実行すべてにわたり青年会議所が中心となり、メンバー一人一人が仕事をする時間を減らしてまでも、朝から深夜まで祭りの成功のために力を注ぎました。

このまつりの大きなポイントは「参加型」のまつりに仕上げたいこうということでした。お金を払っての業者の企画、設営等ではなく、出来る限り多くの人々を巻き込んで、要するに「参加」していただき、自分たちの力でまつりを仕上げ、共に喜びを分かち合いたかったのです。

まつり当日は、3万あまりの来場者のもと、大成功の内に終了することが出来ました。

年月が過ぎた今も、資金集めをはじめ、行政との打ち合わせ、出席者との交渉など、いろいろな苦労がありましたが、実行委員長を努めさせていただいた充実した日々が懐かしく思い出されます。

■ 主 な 事 業

○ 第7回山梨市民まつり ふゅーちゃー94

7回を迎えた“ふゅーちゃー”。実行委員会が創意工夫のもとテーマ目的をしっかりともちながら運営し、夏の手作りのまつりとして参加者が身近に感じられる企画だった。全体的な構成は市内児童・園児による日本一大きなてるてる坊主展示コーナーや大フリーマーケットをはじめ各企業による出店、各イベントなど。メインステージでは市内高校美術部による壁画をバックに市政40周年のシンボルマーク発表、キャラクターショー、警察犬の実演等内容の濃いメニューだった。

○ 講師例会「JC会員としての目的意識」

定款・諸規定見直し、現代にあった定款諸規定をつくりスムーズな会議所運営を行うためコンサルティング会社に基本資料を送り見直しをしてもらった。

○ まちがいだらけのJC活動

奉仕(ボランティア)とは何か? 意義ある活動を行うための基本理念を、各メンバーが再確認した。また、青年会議所に対するメンバーの意識調査を実施し「名言集・アンケート」として編集・発行。

1995年 第23代理事長 古屋 文 仁



■ 当時を振り返って

数々の思い出に残る事業がありますが、その中でも一つあげると、私のときに行なった10回を数えたサマースクールが強く思い出に残っています。今では、市教育委員会等でいくつかのサマーキャンプ等が行なわれていますが、我々JCが行ったサマースクールとはだいぶ違うので、その時を懐かしく思います。それと事業ではないが、1995年1月17日に起こった阪神淡路大震災においてすぐに行ったボランティア活動。JCの行動力が日本的にも再度認められた出来事でした。

■ 主 な 事 業

○ 第1回ウォークラリー

明るい豊かな、そして住みよい街づくりをするにはどうしたら良いのか。それには住人たちが自分達のまちを好きになること、誇りを持つことであり、その為にJC活動として何をすべきか、何が出来るのかを考えてきた。その結果、手法として、実際に肌で感じ体験してもらうのが良いとの結論に達した。ちどり湖平和の塔と窪八幡神社を結びウォークラリーを行い市民に山梨市の素晴らしさを再発見してもらった。

○ 第10回サマースクール

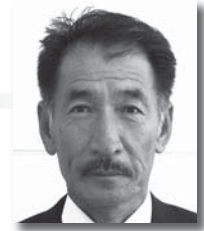
「冒険」をテーマにサマースクールを実施、特に大昔の方法で火をおこし、大切さ、尊さを身をもって体験した。なお、この事業はブロック褒章の青少年開発部門の優秀賞を獲得した。

- part-1 開校式 参加者 子供父兄101名
- part-2 山梨県立愛宕山少年自然の家 参加者子供54名
- part-3 子供達のかいた絵画展示講師例会
- part-4 子育てを考える 講師一山梨大助教授中村和彦氏

○ 家族例会

浜名湖にて潮干狩りをしながら、一日楽しく懇親を深めた。

1996年 第24代理事長 望月 勝 二



■ 当時を振り返って

1996年度 第24代理事長として「ガッツ山梨JC！未来見つめて人づくりまちづくり」をスローガンに掲げ、36名一丸となりロム、ブロックと精一杯取り組みました。

ロムにおいてはグローバルな観点から国際・会員交流委員会を設け、ホームステイを実施、県国際交流協会との関係もあり1泊ではありますが、アメリカ・中国・フィリピン他総勢16名を受け入れ、先輩各位の協力を頂きながら交流を深めたことが印象に残る事業でした。

また当時社会問題となった「いじめ」問題を取り上げ、東山梨市町村を対象に山梨日日新聞でも連載の藤井東先生を囲んでの講演会、(株)山梨CATVの企画によるまちづくり会議(座長朝日新聞社編集委員長山梨市出身 井尻千男氏)、第2回山梨再発見ウォークラリー(県指定重要文化財 窪八幡神社)の開催、また、ブロックではスポーツ大会の主管として開園早々のフルーツ公園での記念式典など主管ロムとして最高のPRができた事が思い出深い事業でした。

■ 主 な 事 業

○ ホームステイ

外国からの方々をメンバー宅に招きホームステイを実施した。翌日、受入側と外国の方双方の感想を語ってもらいながらのバーベキュー大会を開催した。1泊2日と短いホームステイだったが、受入前の不安の声のバーベキュー時には満足の声に変わっていたことが、外国の方との国際交流・親睦が充分図れた結果ではないだろうか。

○ 第2回山梨再発見ウォークラリー

概要は八幡小～江曾原一見川一清水陣屋跡一窪八幡神社一八幡小のコースで、15箇所のチェックポイントを設けこの地区の文化財等の問題を出題、昼食後答え合わせを兼ねて三沢先生の講演を聴く。参加者が山梨市にある財産の素晴らしさを再発見し少しでも自分のまちを好きになってくれたと思う。参加者151名。

1997年 第25代理事長 丸山親二



■ 当時を振り返って

25周年の年にあたり、自分の中では特別な位置付けと考えておりました。今後の30周年に向けての長期的なJCの有り方についてJCメンバーの意識の改革について考えていたように思います。15年前ではありましたが現在の社会状況を見ますと、JCは社会の行き詰まりへの危機感を感じ、早くから変革を求めているような気がします。JCが時代の先を読んで時代を創っているとは必ずしも思いませんが、その時々日本のJCの街頭や日本JCが提言している事をいうのは何年かすると必ずやJC活動の指針となるものになるような気がいたします。

■ 主な事業

- まちづくり・ひとづくりをテーマにディスカッション
理事長丸山親二君を講師に、今までのまちづくり、これからのまちづくりについて語り、メンバーとディスカッションした。
- 25周年記念例会：シニア、メンバーパネルディスカッション
「地域主権・住民主導のまちづくりにおけるJCの役割」と題したサブテーマについて、中村県議、本間市議会議長、丸山理事長の3人によるパネルディスカッションを実施した。
- 会員大会：
第26回会員大会主管ロムとして、スローガン「つどえ山梨小さなデモクラシーを求めて」のもと市民会館・勤労者福祉センターを会場に3本柱で実施した。
概要1. 集結ゾーンーシェイプアップガールズとのトークショー
2. 研修ゾーンー分科会インターネット体験・パネルディスカッション・GTS報告会・環境体験とワークショップ・財政セミナー・講師講演会
3. 歓迎レセプション

1998年 第26代理事長 奥山弘昌



■ 当時を振り返って

当時、「楽しくなければJCじゃない」をうたい文句に、私にとっては楽しい1年間を過ごさせていただきました。生まれながらの、押しの弱さと、詰めの甘さが災いして、当初描いた事業が実現しなかったわけですが、私を囲んでくれたメンバーの皆さんに支えられて、1998年を終えることが出来ました。

思い出に残る事業ですが、京都が苦手な私の我が儘を理事会で通していただき、「南の京都会議」と題し、当時の副理事長小串君の粋な計らいで、サイパン例会を実施していただきました。そのとき語った、市町村合併は、現在山梨市の最重要課題となっているようです。また、今では山梨市のお荷物となりかねない、第三セクターのあり方について現地視察を行った、カートレース例会など、つい昨日のここのように思えます。

吉原理事長をはじめとする公益社団法人山梨青年会議所の現役の皆さん、二十代・三十代でなければ実現できないことがいっぱいあると思います。多くの仲間を作り、快適な町絵を作ってください。そして会議所活動を楽しんでください。

■ 主な事業

- 家族例会
森林公園金川の森公園において実施された。ターゲットバードゴルフなどを楽しみながらメンバー家族間の交流を深めた。
- 市議会傍聴例会
近年の地方自治体を取り巻く問題を考えた時、市議会を傍聴することで地方議会をメンバーに紹介して、現在地方自治で働くシニアの先輩方を参考に将来のあるべき諸事業のタイアップの第一歩とした。
- サイパン例会
USA・サイパン島にて2泊3日の海外例会。社会人として狭い視野に囚われず世界的地球的視野の導入と行動ができるようになること、また社会見学を含め地球市民となれるよう会議(市町村合併)と懇親会を実施した。
- カートレース例会
21世紀に向け、地域施設の活性化、第3セクターのあり方につき、実際に運営されている施設を利用することにより問題提起を期待した。

1999年 第27代理事長 土屋 真



■ 当時を振り返って

平成根津学校を開校し、地元の知られていなかった偉人をテーマに市民に知ってもらいました。この事業は、設立より20数年たつ青年会議所で沢山の事業を計画、実行して経験豊富な先輩達が卒業されていく中、新しいJC会員でJC活動とは何かを考えているメンバー達に良い経験になる事業となりました。この事業を企画、実行して頂いた坂本君、塚越君、飯島君に感謝しています。また、市長、市議会議員とJCメンバーが市町村合併について考える会を実施しました。この事業は前年、小串君が企画した市議会議員との懇親会とJCメンバーだけによる市町村合併の勉強会を一步進めて、JCメンバーと市長、議員が同じテーブルを囲み、山梨学院大学の江口清三郎先生の講演を聴き各会派の代表者と市長に意見を発表して頂きました。市町村合併については20周年記念事業で委員長として携わった事があり前年、小串君が企画した事業をみて是非やりたいと思っていたんですが、中心となる委員長を誰にするか迷っている時に、「誰もいないんじゃないしょうがない」といって引き受けてくれた齊藤雄太君に感謝します。初の指導力委員長でいろいろな指導力開発の技法について模索勉強してくれていた手塚委員長にも感謝しています。

■ 主な事業

○第1回平成根津学校

山梨市民会館にて開催された、自分たちの住んでいるまちから生まれた偉人を多くの人たちに知ってもらいたいとの理念のもと、根津嘉一郎氏を取り上げ、彼の一生、実績、功績を紹介した。また三浦教授による講義をはじめJC紹介コーナー、軽食コーナー等様々なイベントブースを出展した。この事業は山梨ブロックの褒章で最優秀賞を頂き山梨JCをアピールすることができた。

○講師例会「東山梨地区の合併を考える」講師江口清三郎先生

高田山梨市長、瀧沢事務局長をはじめ、14名の市議会議員にも出席していただき意見交換をしてもらった。また峡西JC理事長長谷川君、塩山JC理事長矢崎君にも参加してもらい各青年会議所の考えを発表してもらった。

○アカデミー委員会：ゲーム方式による研修

第1回意識改革の勉強及び第2回「社員研修」ゲームを通じリーダーシップコミュニケーション等について学んだ。

○家族単位例会：通年

例会をメンバー自身の家族とともに各家庭単位で、それを通年を通して実施するという今までの家族例会のスタイルとは違うもので、まずは自分自身そして、家族を見つめなおし、JC理念でもある人づくりの第一歩に思ったと思う。

2000年 第28代理事長 奥井 和也



■ 当時を振り返って

2000年という節目の年に理事長を仰せつかり、大変充実した一年を過ごすことができました。これもひとえにメンバーの皆さんのおかげだと、とても感謝しております。思い出すのはまずは平成根津学校です。「循環型社会を学ぶ。今、わたしたちにできること」と題し、環境問題に取り組んだ事業です。この事業を開催した意義は、実は大きく二つあります。まず一つには今までなかなか取り上げる事のない環境問題に正面から取り組み、多くの市民の皆さんと共に考え、問題提起が出来たことです。又、積極的に取り組んでいる企業・市民団体の紹介や、市内の小学生から作文を募集しての発表、更には市民の代表とのパネルディスカッション等々、我々メンバーも大変勉強になりました。もう一つは、前年度始まったこの事業の来年度以降の方向性を決める大切な二年目、という意識でこの事業を捉え継続事業の位置付けができたことです。つまりその年にふさわしいテーマを選定し、市民の皆さんに学ぶ場（学校）を提供する事業として、今後も平成根津学校の名のもと事業が開催される基礎ができたと思います。次にサマースクールです。私自身最初の委員長の時に第9回を担当してから、理事長になったら是非この事業をしたいと思っていました。そして開催することによって、昔とは違う今の子供達の言動などに愕然となりながら、これはむしろ子供より親に問題があるのでは、という点に着目し、サマースクールのまとめの11月例会を親たちも交えて開催できました。このことは、JCとして足りないと言われる事業の検証も出来たという点からも、大変意義深い事業となりました。

■ 主な事業

○環境についての例会

- (1) 講師例会：講師に藤巻真史先輩を招きメンバーの「環境」に対する知識を向上させた。
- (2) 平成根津学校：山梨市民会館で環境をテーマに開催した。
- (3) 見学例会：山梨日本電気(株)山梨工場を訪ね、企業における環境施設や取り組みを見学し見識を深めた。

○サマースクール

5年ぶり11回目のサマースクールを実施した。7月に事前勉強会を開催、参加児童たちが自分達で班づくり、食事のメニュー、材料、調理方法等を決定、また親睦を深める。8月、牧丘町グリーンロッジにおいて第11回サマースクールを開催、昔の道具を使った火おこし、飯盒炊飯、ナイトハイク、追跡ハイク等行った。11月には総決算としての勉強会「子供を変えるには親から」を開催。親子の考え方のギャップを双方に知ってもらいこれからの子育て教育の一助としてもらった。またこの事業はブロック褒章の優秀賞を受賞した。

○市町村合併を考える会

市民・一般にむけての講演会で勤労者福祉センターにおいて開催された。講師に山梨大学江口清三郎先生を御招きし、講演そして質疑応答を行った。市議会議員の皆様にも多数の出席を頂き活発な質疑応答が行われた。当日は県内各地で多数のイベントが開催されており、惜しむらく市民・一般の出席が少々すくなかった。

2001年 第29代理事長 雨宮和仁



■ 当時を振り返って

2001年度世界情勢では、9.11米国同時多発テロ事件が有り、アフガン攻撃が始まったと混沌とした年でした。「たくましく行動、次への創造」のスローガンのもと29代の理事長をさせていただきました。『こころ豊かな交流～ともに助け合うまちづくり』と題した「平成根津学校2001」を市民会館で行いました。現代社会の忘れ物となっている『他人を思いやる気持ち』『助け合って生きる気持ち』をもう一度原点に戻り、高校生に力をお借りする中、多くの協力団体の皆様と共に事業の準備段階から、多くの勉強をさせていただきました。又、会頭の公式訪問を当ロムで主管させていただき、気さくな土屋会頭が、ロムのメンバーと交流する中、JCとしての意識が高まった事業だったと思います。そして、市町村の合併問題への取り組みや、メンバーの家族を含めた釣堀で行った交流会、又30周年に向けての準備委員会などさせていただきました。

■ 主な事業

○平成根津学校2001

『こころ豊かな交流～ともに助け合うまちづくり』と題し、6月に山梨市民会館で行いました。理事長所信にある「ろう学校の生徒との交流」を基本に、福祉の視点から見たまちづくりを念頭において、いかに多くの市民に興味を持っていただき、わかりやすく提言できるかということを中心に企画・活動しました。おかげさまで多くの協力団体と共になって、事業の準備段階から、様々な世代との交流を通して、事業を成功させることが出来ました。また10月には、手話の講演講習会を開催し、メンバーをはじめ、多くの市民に参加していただきました。なお、ブロック協議会の褒章で、最優秀賞をいただきました。

○会頭公式訪問 主管

山梨市民会館にて、会頭公式訪問を主管として開催しました。例会では、3人の新入会者が土屋日本JC会頭からJCバッジを受け取るという栄誉を得ました。またこの年は5人の入会者を迎えました。

○市町村合併についての例会

講師例会二回開催（一回目講師峡東地域振興局の市町村合併担当の初鹿野晋一氏、二回目講師税理士山本大志氏）とメンバーによるディスカッション二回開催しました。講師例会では、合併に関する知識の習得を主とし、メンバーによるディスカッションでは、ロム合併を中心にメンバーの意見交換を行いました。

2002年 第30代理事長 手塚文夫



■ 当時を振り返って

吉原理事長をはじめとするメンバーの皆様、創立40周年おめでとうございます。現役当時を振り返りまして、心に残る事業は、山梨市の偉人を市民に知ってもらおうと始めた「平成根津学校」です。継続事業として位置づける大切な2回目に担当委員長としてメンバーの協力により開催、4回目となる当年には地域に密着した活動を通して人づくりをするため、年間を通しての事業で、第12回サマースクールをメインに行いました。山梨JCと言えば「平成根津学校」と言われるほどに認知されました。30周年記念は感謝の意として市民も対象にした公開例会や記念誌の発行と、担当委員会には大変苦勞をして頂きました。JC活動は、「人の心づくり」を学ぶ場所でもあり、私は先輩や後輩から多くを学びました。過去の歴史への感謝の気持ちをもって、次の時代に向け～夢現の可能性を信じて～躍進を期待しております。

■ 主な事業

○1月第1例会（市長例会）

○5月第1例会（家族例会）

陶芸教室を通し家族にJC活動の理解と協力に感謝し、また家族間のスキンシップ及びメンバー家族間の交流を図った。

○6月第1例会

会員の修練の場として座禅を行いました。座禅を通して日頃何かと忙しい中で呼吸を整え、自分を見つめ直す時間がほんの僅かでも必要であることの大切さを教えていただいた。

○8月第1例会（平成根津学校）

年間を通して教育について考えました。メインイベントは、第12回サマースクール。テーマは「異なる世代間の交流」、幅広い世代間の参加者と一緒に生活する事によって普段出来ない交流の場とし、自然生活、野外活動を行う中で、自然のすばらしさや大切さを学んでもらおうと行った。

○30周年記念事業

第1部

佐野JC主催のミュージカル「パーフェクトファミリー」を家族と一緒に観劇した。

第2部—環境セミナー

地球環境に対する認識を深めるセミナーを山梨市民に提供し子供達に、美しい地球環境を残すために自分達が今、何をすべきなのかを考えて頂いた。

第3部 覚和歌子の詩の朗読会&映画「千と千尋の神隠し」

山梨市出身の詩の朗読家覚和歌子さんを招き、詩の朗読会と、覚さんが主題歌を作詞した映画「千と千尋の神隠し」の上映会を開催した。

2003年 第31代理事長 齋藤雄太



◆スローガン

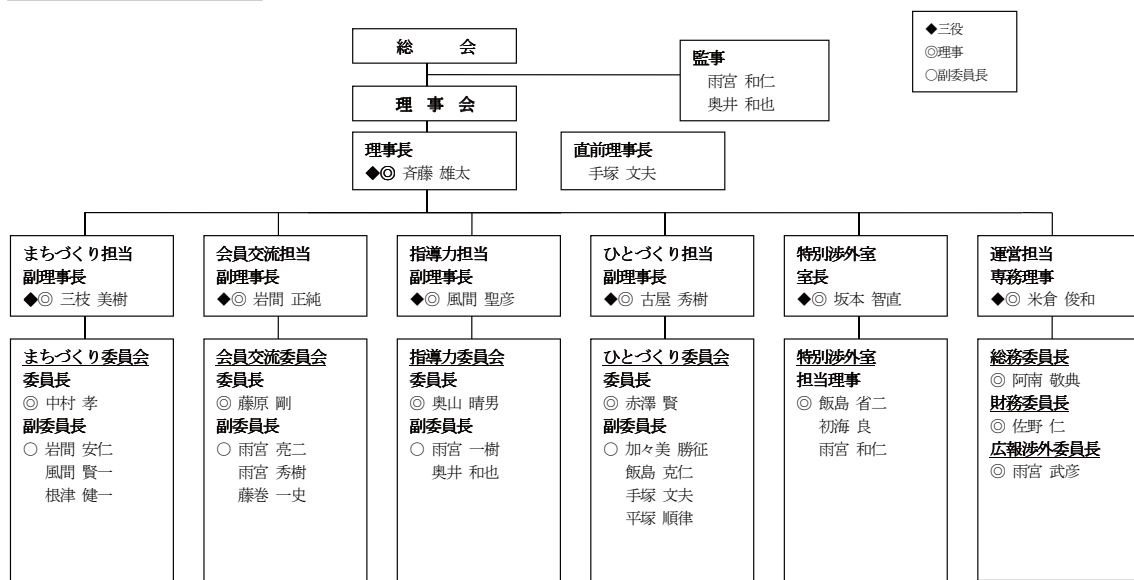
心と心のスクラムを組み山梨J Cのトライを勝ち取れ

■当時は振り返って

当時は振り返って最初に思い出すのは、青少年育成事業です。平成根津塾を始め、山梨県秋吉町との交流事業、ジュニアリーダー育成にも最初から協力し、J Cの壁を越えて生涯学習課との連携の推進に努力しました。「学習とは良く変わる事」を胸に、まちづくり、メンバーの資質向上、リーダー育成、他団体との交流等を行いました。元来ひ弱な私が理事長を全うできたのは当時のメンバーの支えによるものと深く感謝を申し上げます。

現役メンバーに一言、「政治が悪い、景気が悪い」とよく言いますが、「あなたどうしたいの？」全て人のせいにしてている人が多いと思います。誰かがまともなことを言おうとすれば、皆聞こえないふり。それでは何も生まれてこない。これは私の理事長所信の書き出しです。若いメンバーには「自分のまちが好きになれる様」J C活動の中で、自分が何をすべきなのかを考え、「夢を持ち、実現に向けて」進んでほしいと思います。

2003年度 組織図



◆主な事業

○平成根津塾

完全学校週5日制の導入により学校主体の教育の在り方から地域の教育への関与が必要となる時代の変容を遂げる時期であり、歴史・文化・自然に触れるウォークラリーと救急救命講習を行った同事業は地域教育のモデルケースとなった。

○講師例会

「私たちの暮らしと情報公開」というテーマで講演をいただき情報公開制度や個人情報保護制度その他関連制度の理解を深めていった事業でした。同時に山梨市の実態の遅れを痛感し官民一体となった推進の必要性を共有する意義深い事業となった。

○高校生が考えるまちづくり

高校生を対象に山梨市を理想の町にする為歴史と風土をいかしたランドデザインをする事業でした。高校生の自由な発想は新鮮で特にハード的な要求が多いことには開発のプライオリティを感じさせた。

○平成根津学校

一年を通して活動した平成根津塾の集大成となる事業であり、壁画の制作、高校生フォーラム、ライブ、バザー等フルボリュームの展開をした。関係者も広範に及び委員会の苦労は今更ながらも偲ばれるところであったが、地域を挙げて青少年の健全な成長を願う真摯な想いが結実し参加者たる青少年の真っ直ぐでひたむきな姿は地域の未来に希望を感じさせる成果を実感した。



平成根津塾 5月塾



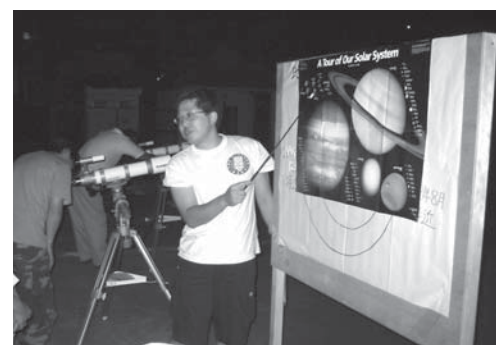
平成根津塾 6月塾「高校生が考えるまちづくり」



平成根津塾 7月塾



スピーチディスカッション例会



平成根津塾 8月塾ウォークラリー



平成根津塾 11月塾
「高校生が考えるまちづくり」

2004年 第32代理事長 風間 聖彦



◆スローガン

心を豊かに そしてゆとりを・・

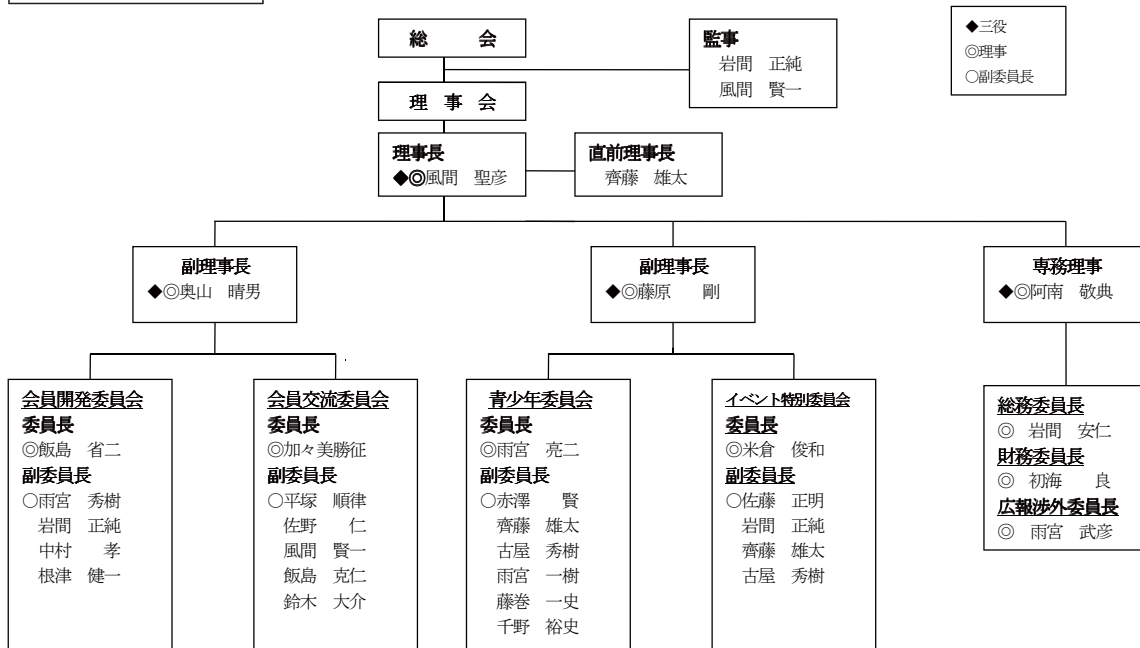
■当時を振り返って

公益社団法人山梨青年会議所創立40周年おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

青年会議所在籍中には、多くの機会を頂き、たくさんの貴重な経験を積むことができました。私が理事長を務めた2004年度は、山梨青年会議所の伝統事業でもある青少年育成事業に力を入れ、「春・夏・秋・冬」と季節ごとに趣向を凝らした事業を開催したことは強く心に残っています。その中でも、「夏の冒険」は、初めての海での事業でした。県外へ子ども達を連れていくということで、安全面や運営面において多くの苦労や問題もありましたが、無事に事業を終えることができたのは、メンバーを始めとする多くの皆様のご協力のお陰だと感謝しています。またこうして事業を成功させることができたのは、先輩方が山梨市のために活動し、築いてきた「青年会議所」という名前と信頼があったからだと感じています。全ての活動が今でも私にとって素晴らしい良い思い出となっています。

これからも公益社団法人山梨青年会議所の皆様のさらなる活躍と発展を期待しております。

2004年度 組織図



◆主な事業

○冬の冒険

一年間を通して「冒険」をテーマに、自然を体感し感受性豊かな健康でたくましい青少年育成を目指し、季節に合わせた事業を開催しました。まずは2月に「冬の冒険」としてワカサギ釣り体験、雪あそびに挑戦しました。

○春の冒険

続いて5月に「春の冒険」を開催し、地元山梨市の自然を満喫してもらうため、西沢渓谷でのウォーキング、広瀬ダムの見学を行いました。

○夏の冒険

続いて7月には「夏の冒険」として、宿泊体験事業を開催しました。目的地は京都マリンピア。2泊3日で開催した事業では、海水浴や地引き網といった海での活動を中心に、子ども達が集団生活を通して活発に交流し、お互いの友情を深め、規律と奉仕の心を培う事ができました。

○秋の冒険

一年間を通しての最後の事業として「秋の冒険」を開催し、青木ヶ原樹海でのネイチャーガイドツアーや、環境科学研究所と生物多様性センターでの見学から、山梨の自然についてしっかり学ぶ事ができました。



冬の冒険 (松原湖)

2月



4月



5月

メンバー講師例会



春の冒険 (広瀬ダム)



春の冒険 (西沢渓谷)

5月



夏の冒険 (マリンピア地引網)



夏の冒険 (京都府天橋立)

7月

8月



講師例会 (少年の非行の現状と防止対策)

10月



秋の冒険

2005年 第33代理事長 奥山晴男



◆スローガン

明日に向かっていま行動

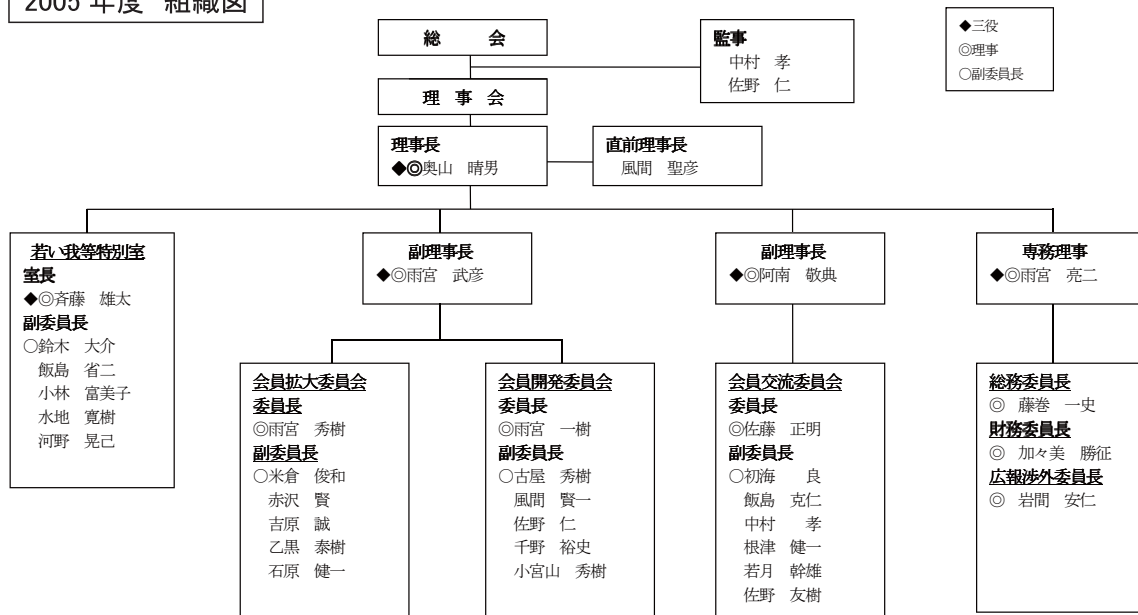
■当時を振り返って

山梨JCの皆さま、創立40周年おめでとうございます。理事長を務めさせていただいた頃を振り返ると、懐かしい日々が甦ります。経験不足な面が多々ありましたが、理事会メンバーをはじめとする皆様に支えられてどうにか理事長としての一年を全うすることができました。難しいテーマへの取り組みを行なったり、各種の会議等で山梨JCの理事長として緊張を強いられる場面もあつたりしましたが、今想うと毎日が刺激的で、あつという間の一年間だったと記憶しています。

相変わらず厳しい社会情勢の中、山梨JCとしても大きな節目を迎えているとは思いますが、批判や失敗を恐れずに新たなチャレンジをしてほしいと思います。そして現役メンバーの皆さん、対外的な事業を行うにあたり、誰から見てもイイ事やっていますよ風な内容も大いに結構ですが、JCとしての真価を問われる今だからこそ、行政や地域社会に対し問題提起を行うような事業展開も期待しています。

以上、これからも山梨JCの皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

2005年度 組織図



◆主な事業

○雪の自然探偵団・海の自然探偵団

青少年育成事業として冬と夏の2回宿泊体験事業を行なった。ジュニアリーダーの協力のもと参加者に自然を通じて様々な楽しい体験を通じ学びの場を提供した。

○市田ひろみさん講演会

「伝えたい日本のこころ」と題し、市民の皆さんに市田さんの講演を通じて社会を取り巻く問題点を再認識してもらう機会を作った。

○教科書採択に対する取り組み

教育委員会と市長に教科書の採択に関する要望書を提出し、教科書展示会に任意で赴いた。また教科書の採択結果を受けて質問書を提出し、教育委員会との意見交換会を行なった。

○会員を対象にした地域再発見事業

地域産業に関する講演会やワイン醸造施設や農園での実習を行なった。最後に実際に自分達で絞ったワインを囲んで座談会を行い、実体験を通じての地域再発見事業を行なった。

○会員交流事業

フットサル大会、家族例会、納涼会、卒業式及び納会など会員相互の交流をはかった。

○会員拡大事業

入会説得シミュレーション例会や明日のJCを語りあう会などを通じ会員拡大を行なった。その他、3分間スピーチ例会や木質バイオマスシンポジウム、新人例会として山梨市フットサル大会などを行なった。

拡大説得シミュレーション



2月



雪の自然探偵団



5月

市田ひろみさん講演会



家族例会(蕎麦打ち)

6月



教科書採択に関する要望書提出



海の自然探偵団

7月



地域再発見事業



明日のJ.Cを語り合う会

10月



木質バイオマスシンポジウム

11月



山梨市フットサル大会

2006年 第34代理事長 雨宮 武彦

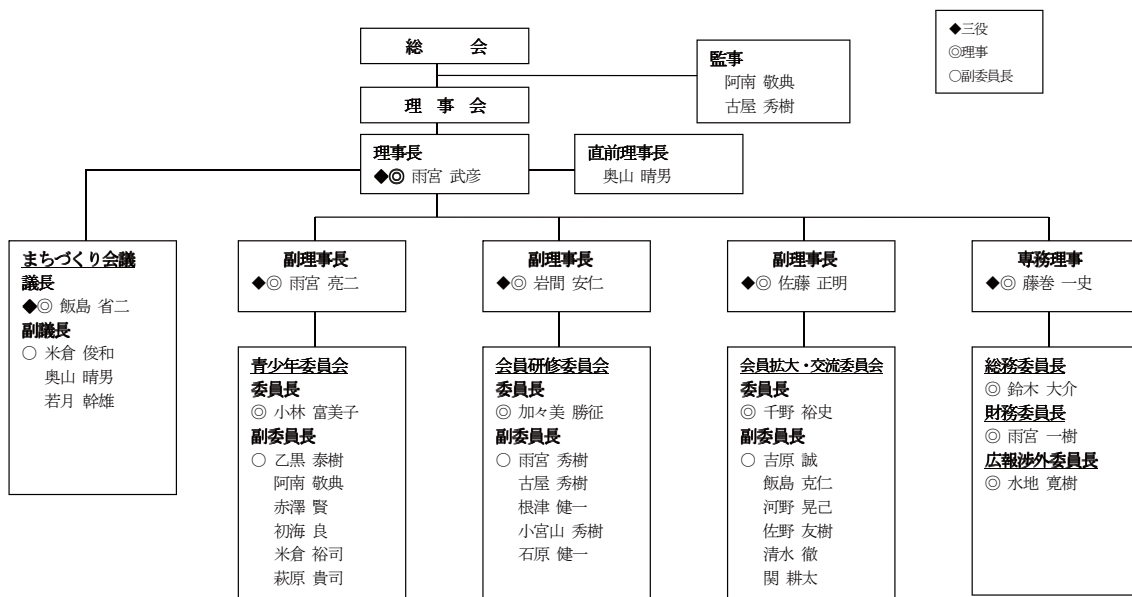


◆スローガン
目指せ、レベルアップ!

■当時は振り返って

設立40周年おめでとうございます。
私が理事長をさせて頂いた2006年を振り返ると、年度当初の会員数は29名でしたが、数年後を考えると20名前後になってしまう状況で、他の青年会議所と同様に会員拡大が必要な状況でした。会員を拡大するには何が必要か？その時に必要だと感じたのは、山梨JCの更なる魅力向上でした。「あの人達と活動したい、仲間になりたい」と思ってもらえるような事業を行いながら自分達の資質も向上させていきたい、ということを考えていました。運よく、その当時のメンバーに非常に協力をして頂き、自分が考えていた以上の年になりました。例えば、子供100人超を連れていった夏の自然探偵団、初めての試みの大弛峠ヒルクライム等が開催でき、充実した一年を過ごさせていただきました。
40周年を迎える現在、当時以上に難しい環境ですが、これからも魅力ある青年会議所活動を続けていって欲しいと思います。

2006年度 組織図



◆主な事業

○森の自然探偵団・夏の自然探偵団（青少年事業）

子供達の笑顔が見ることができ、参加して良かったと思える事業をということで、3月に高遠少年自然の家、7月に熱海の海で行いました。特に7月の事業は申し込みのあった100人を超える子供達に参加して頂き、スタッフもボランティア、ジュニアリーダー、熱海JCの協力を得て成功に終わりました。ブロック褒章で優秀賞を頂いた事業でした。

○大弛峠ヒルクライム

日本一の高低差の大弛峠を自転車に登るというイベントを行いました。作ろうと思っても作れない自然を活かした事業だったと思います。これを機に自転車に登る方が訪れるようになったと思います。ブロック褒章最優秀賞を頂いた事業でした。

○ボディランゲージセミナー・VFセミナー

JCIトレーナーの資格を持ったコーチに依頼して、JCの三信条である指導者訓練を基調とした修練を目的とし、事業を行いました。久々の研修事業でやって良かったと思った事業でした。



森の自然探偵団 (おやき作り)



森の自然探偵団 (東尾根ハイキング)



家族交流例会 (河口湖)



夏の自然探偵団 (熱海市少年自然の家)



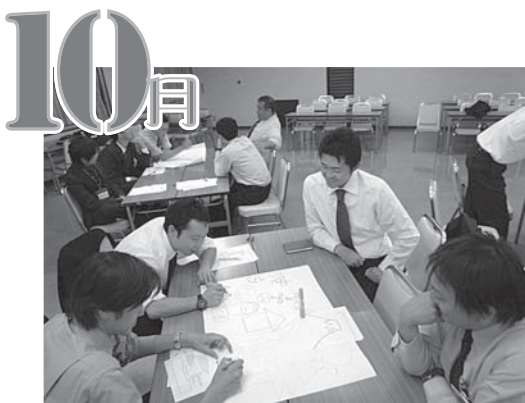
大弛峠ヒルクライム



夏の自然探偵団 (海釣り)



夏の自然探偵団 (飯盒炊飯・魚さばき講習)



ビジュアルフューチャーセミナー



第2回山梨市フットサル大会

2007年 第35代理事長 佐藤 正明



◆スローガン

—絆 きずな— 『人と人との出会いを大切に』

■当時は振り返って

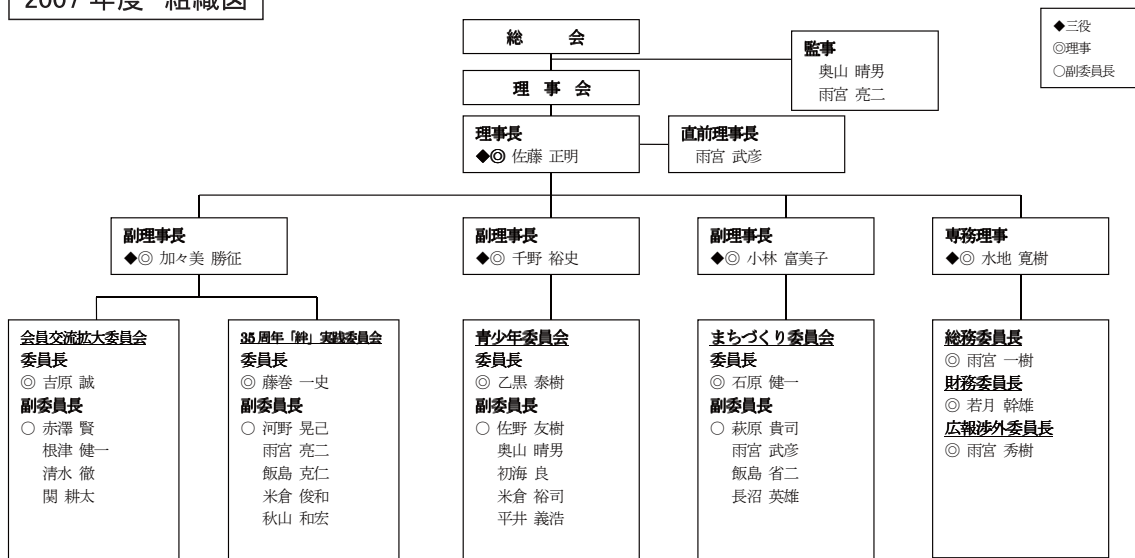
この度は山梨青年会議所創立40周年、誠におめでとうございます。

私は平成15年に山梨青年会議所に入会し、7年間在籍をさせて頂きましたが、その間様々な活動に参加することができ、また多くの諸先輩方からご指導を受け賜り、かけがえない経験・財産を得ることができました。

青年会議所を卒業して3年が経ちますが、熱気に溢れた活動を懐かしむと共に、今その経験が大いに生かされている事を痛感しています。

今年度は創立40周年の節目の年となりますが、昨今の厳しい経済環境の中、青年会議所の活動も非常に厳しい状況かと思えます。現役の皆様におかれましては、限られた時間を有効に活用し、より一層の活躍を期待いたします。

2007年度 組織図



★出向役員
社団法人日本青年会議所 関東地区
山梨ブロック協議会 メディアコミュニケーション委員会 委員長：雨宮 秀樹

◆主な事業

○35周年記念事業

35周年記念事業として、富士登山に挑戦しました。厳しい登山でしたが、途中、山小屋に寄り食事や宿泊をしたり一緒に楽しく登頂する事ができ、御来光にはメンバー一同感動をしました。富士登山を通して、スローガンである「絆」をメンバーとより一層深めることができました。

○まちづくり事業

国の重要文化材に指定されている「大井俣窪八幡神社」をテーマに一年を通してまちづくり事業を行いました。特に地元の人たちにも参加してもらい開催したイベント事業「八幡の音市」では、和太鼓や津軽三味線の演奏による音楽奉納をメインに、盛況に事業を開催する事ができました。一年間の事業を通して、大井俣窪八幡神社の歴史的価値の高さや、またそれを活かしたまちづくり事業を地元の人たちにも再認識してもらう事が出来ました。

○青少年育成事業

春の事業では長野県の妙高高原に行き、普通なかなか経験できない雪山でのスキーによるクロスカントリーを子供たちに体験してもらいました。また、夏には子供たちによるラクビーの体験事業、秋には市内の小学生チームを集めた「第3回山梨市フットサル大会」を盛大に開催しました。一年を通した事業の中で、子供たちに貴重な体験やスポーツの楽しさを知ってもらうことが出来ました。



雪の自然探偵団〜クロスカントリー (in 妙高高原)



自らのまちを知る (in 窪八幡神社)



チャレンジ!スポーツ



写生大会・整備活動 (窪八幡神社)



35周年記念富士登山例会



35周年シニア合同宿泊例会



八幡の音市 (in 窪八幡神社)



第3回山梨市フットサル大会



イルミネーションピラミッドタワーオブジェ制作



子供達の運動能力向上を考える市民シンポジウム

2008年 第36代理事長 加々美 勝 征



◆スローガン

「自立」～元気に！前向きに！チャレンジ！～

■当時を振り返って

2008年度「自立」～元気に！前向きに！チャレンジ！～をスローガンに、異業種における交流、事業の達成感だけではなく、メンバー同士が切磋琢磨し、自己を変革し続ける力を築き上げ、「自立したまちの構築」を目指し、活動に取り組みました。

メイン事業として、「見てみよう山梨市」（大空から見る私たちの桃のまち）を開催しました。

「自立経営できるまち」を目指す心を育む為に、山梨市の自慢できる素晴らしい桃のまちの風景を、気球ののって山梨市民に見ていただき、感動し好きになってもらいたいと思いました。

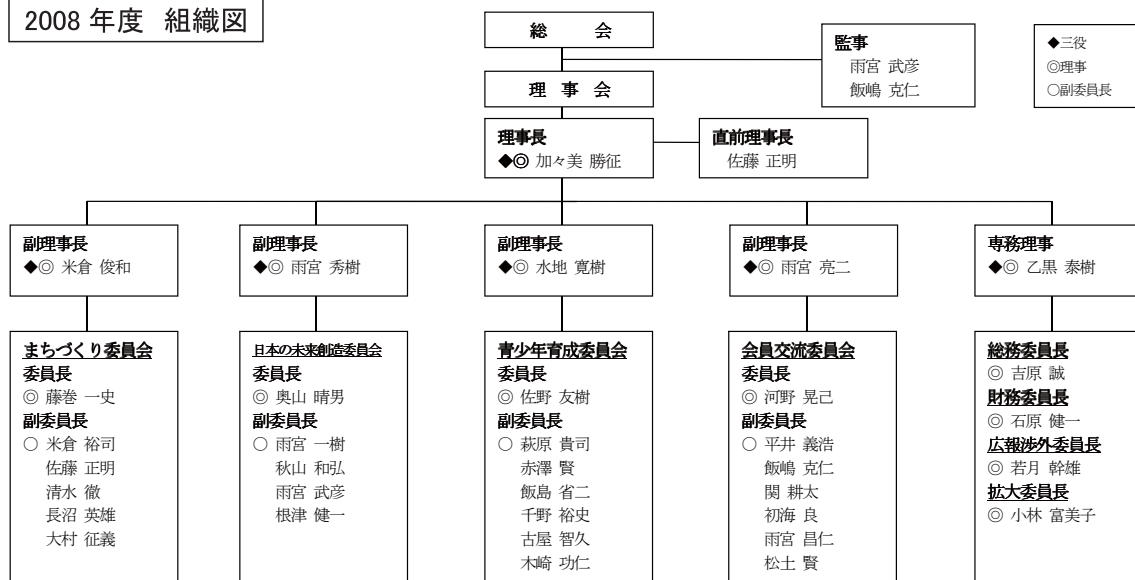
未来を担う子供たちが、自分のまちを好きになり、希望を持ち、夢を語る。

山梨JC現役メンバー諸君、自分が青年会議所活動を通し、何ができるのか。今一度、振り返り本来の目的は何かを確認しなければならないメンバーが、増えているように感じます。

「未来を担う子供たちの成長は、待ってはくれない」

吉原理事長、山梨青年会議所誕生「40周年」誠におめでとうございます。

2008年度 組織図



★出向役員

社団法人 日本青年会議所 関東地区
山梨ブロック協議会 監事：奥山晴男

◆主な事業

○通年事業「近現代史教育プログラム」

当時日本青年会議所協働運動である近現代史教育プログラムが、終戦から現代までの日本の立場からの本当の歴史を伝えることと、日本を誇りに思う心を育む部分のバランスが難しく頓挫しておりました。この事態に対しての奥山君の強い志に同感し、理事長経験者でありましたが理事に抜擢、日本の未来創造委員会を立ち上げました。まずロムをあげてプログラムを実施できるレベルで作成し直し、3月までにトレーナー育成例会を実施。育成例会後あけて5、6月には、目的でもある学校（日本航空高等学校附属中学校及び高校）を会場にプログラムを実施。年間を通し県内はもとより、県外からも多数のオブザーバー出席がありました。他ロムでできないこの取り組みが、大いに評価され、この年の10月浜松での日本青年会議所全国大会褒賞アワードに於いて山梨青年会議所で初めて「会頭特別賞」という名誉ある賞を頂きました。

○青少年育成事業

- ・宿泊体験事業「雪の自然探偵団」
大規模災害時での相互応援協定を締結した飯山市の子供達と交流体験事業を実施しました。
- ・「スポーツフェスティバル」
スポーツ教室を開いている団体を一堂に集め、子供達に複数のスポーツを体験してもらいました。

○まちづくり事業

山梨市活性化の為に要所である駅南地域にスポットを当て山梨市を見つめなおす事業やシンポジウム等年間を通じて実施しました。

2月



雪の自然探偵団 (in 長野県飯山市)



雪の自然探偵団～雪かきボランティア～



近現代史プログラム講師育成と構築



4月

みてみよう、山梨市～大空からみる私たちの桃のまち～

3月



近現代史教育プログラムの実践 (in 日本航空高校)

6月



山梨市キッズスポーツフェスティバル

7月



海の自然探偵団～ゴミ拾いボランティア～ (in 鴨川)



10月



日本青年会議所褒賞アワード「会頭特別賞」受賞

11月



よいまちだから山梨市、まちづくり
駅南側について考えてみよう

2009年 第37代理事長 雨宮亮二



◆スローガン

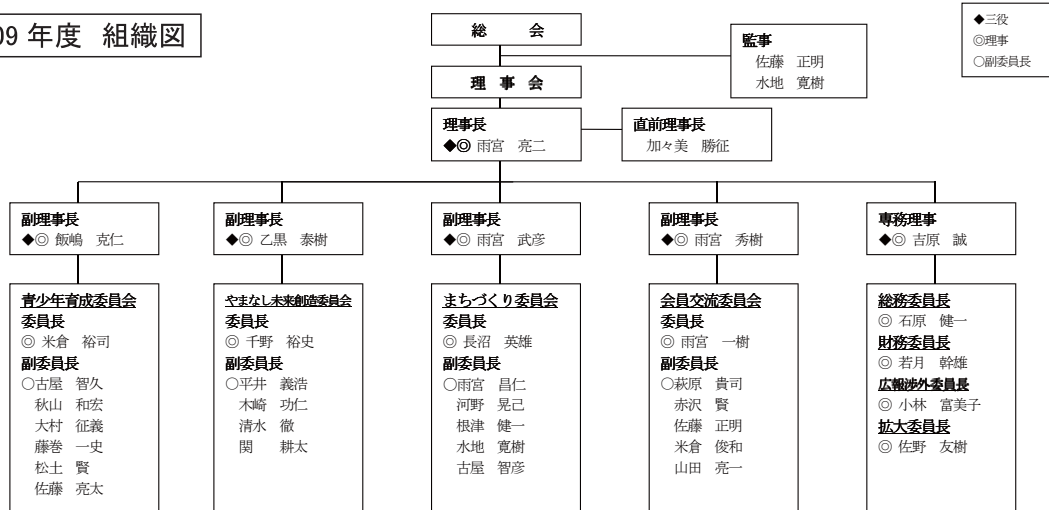
「協力同心」 その瞬間に一步踏出す勇氣

■ 当時を振り返って

創立40周年を迎えるにあたり理事長を始めとする会員諸兄の皆様、本当におめでとうございます。社団法人より公益社団法人に移行はしましたが、歴代の先輩方から受け継がれた志は変わらず時代に合った青年会議所活動としてこれからも地域貢献・人づくりに於いて邁進してくれる事を期待しています。

さて当時は理事長を就任し無我夢中で一年が過ぎてしまった事を思い出します。意識改革から始めた事、共に助け合い共に問題を打破し感動を共に味わった事、今でも走馬燈の様に脳裏に浮かんで来ます。理事長として至らぬ点は吉原専務を筆頭に三役が支えてくれ、仲間の大切さや本音で討論が出来る友や先輩に助けられながら職務を全う出来たと考えます。JCは卒業してしまいましたが現役メンバーの活躍を心よりお祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。

2009年度 組織図



★出向役員
社団法人 日本青年会議所 関東地区
山梨ブロック協議会 監事：雨宮武彦
会員交流委員会 委員長：乙黒泰樹

◆主な事業

- 山梨市長選挙公開討論会
- スノーアカデミー

青少年事業で雪と遊ぶ事や他校との友達作りや団体行動を学ばせる為高原にて宿泊事業を行いました。

- 第39回信玄公祭り甲州軍団出陣真田弾正忠幸隆隊

他団体との交流や青年会議所のPR活動を目的に新市役所から駅までの行進や戦勝祈願など行いました。

- より良い山梨市を考える意見交換会

山梨市議会議員の方々をお招きし、財政問題や三位一体改革・市町村合併などの意見交換を行い今後のまちづくりを考える場となりました。

- 真夏の冒険隊

無人島探検や施設での学習、海でのプログラムなどを通してJL達と共に子供達にとって楽しく学んでもらう事が出来た事業でした。

- 第38回山梨ブロック会員大会

牧丘花かげホールを会場とし出店や職業体験や演奏など多くの方々に楽しんでもらえた事業となりました。

- 合同例会

シニアメンバーと合同例会を行い山梨青年会議所の歴史と重みを改めて認識し、先輩方との仕事関係の交流も深める事ができ今後の糧となった事業でした。

- 3分間スピーチ

メンバーに伝えたい事、学んで欲しい事を3分という限られた時間の中で伝えあい、民宿にて宿泊しJCについて語り合った事業となりました。

- 火おこし達人2009

親子で参加頂き、火の大切さや大事さ怖さなどを体験学習できた事業でした。

- いい駅前どっと混む祭り

山梨市検定やスタンプラリーなど多くの来場者が楽しめた事業でした。

2月



生涯学習フェスティバルにて倫理道德教育及び近現代史教育プログラムの実施

3月



スノーアカデミー



4月



信玄公祭り甲州軍団出陣

6月



山梨市市議会議員との「より良い山梨市を考える意見交換会」



真夏の冒険隊 in 千葉県沖ノ島

8月



3分間スピーチ例会

9月



第38回山梨ブロック会員大会「やまなし大好き祭り」

11月



第5回山梨市フットサル大会のサポート



山梨市検定の実施 in いい駅前どっと混む祭り!

2010年 第38代理事長 飯嶋克仁



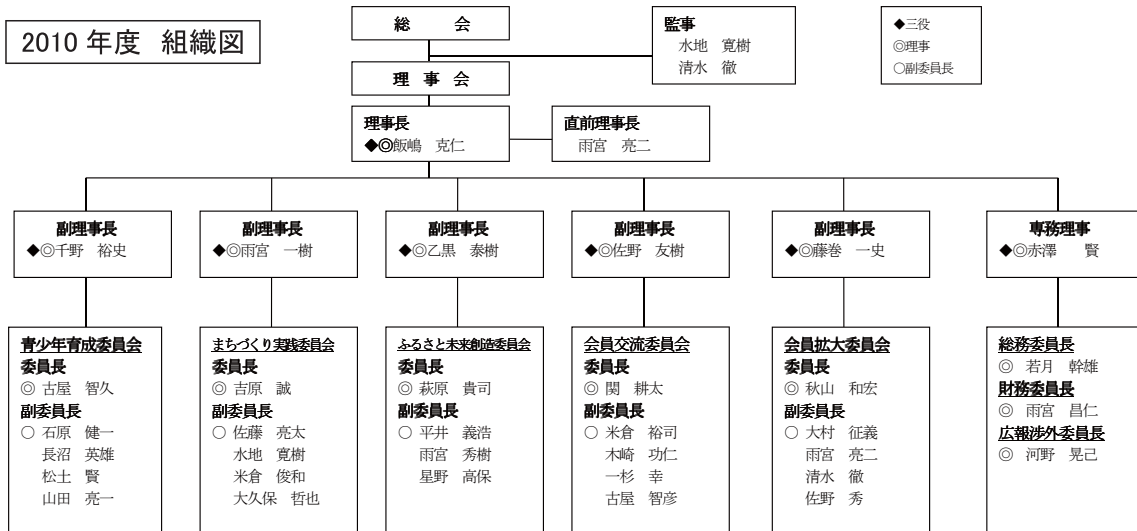
◆スローガン
仁慈一心

■当時は振り返って

伝統を引継ぎ時代の波に揉まれながら活動を行い続け40年間の火を灯し続けて頂いている現役の皆さん心から感謝申し上げますと同時におめでとうございます。

私は、平成8年に社団法人山梨青年会議所に入会させて頂きました。約14年間の会議所活動の中で多くの先輩に知り合いお世話になりました。やがて後輩が多くなるにつれ今までお世話になった先輩方に教えて頂いた事を伝えたい、活気溢れる明るい山梨市にしたいと思い2010年度に理事長をさせて頂きました。私は色々な考えを発信できそして経験をする事ができる事が大切な事。当時のメンバーには、負担が多かったと思いますが、委員長には全員新人の組織、各委員会、市民参加形の事業を行うスケジュールを希望しました。この年間計画を実現させてくれたメンバーには、正しく自信と達成感の顔をしていたのが印象に残っています。また協力をして頂いたメンバーを始め皆様には感謝の気持ちを忘れず卒業していますが青年会議所活動に協力をして行きたいと思っております。

最後になりますが山梨青年会議所の限りなく続く歴史と繁栄を期待しましてコメントとさせていただきます。



★出向役員
社団法人日本青年会議所
関東地区協議会 明日を照らす育成委員会 委員長：乙黒泰樹
山梨ブロック協議会 監査担当役員：雨宮亮二

◆主な事業

- 1月第一例会「市長例会」
- 3月第一例会「3ロム合同例会」
- 4月第一例会「B級グルメ祭り」

市内の飲食店に出場依頼をし各部門ごとに創作品を出品して頂きました。来場者による投票によって順位を決め、参加店を記載したグルメマップを作成し観光地などでへ配布をしました。来場者、約3000人を集客する事ができ盛大に終了できました。

- 5月第一例会「ぼくらの田んぼ日記」

田植えから収穫まで管理をし収穫した餅米を使用して市内の老人ホームにて交流餅つき大会を行いました。

- 6月第一例会「ノーマライゼーション」

地域福祉をテーマに障害者と健常者の見えない壁を少しでも取り除こうと交流運動会、「笑顔で奏でる心の輪！思いやりを響かせよう心の輪」によるパネルディスカッション、音楽会を行い冊子にまとめ地域福祉への理解を深めました。

- 9月第一例会「恋婚活」

オーチャードビレッジ・フフを舞台に2組のカップルを成立させ2012年にはその内の一組が結婚することになりました。

- 11月第一例会「キャンドルナイト」

山梨市フルーツパークを市内の子供達が作ったキャンドルを中心に約5000個を集め幻想の中、環境問題への取り組みを行いました。来場者約1000人と盛大に行うことができました。



B級グルメ祭り in フルーツ公園 PR活動



B級グルメ祭り in フルーツ公園



ぼくらの田んぼ日記～田植え編～



笑顔で繋がる心の輪 in 山梨市

婚活事業「恋婚活 in オーチャードビレッジ」



八ヶ岳自然探偵団



8月

笑顔で奏でる心の輪！おもいやりを響かせよう♪



ぼくらの田んぼ日記～稲刈り編～



ぼくらの田んぼ日記～餅つき編～

11月



キャンドルナイト 2010 in yamanashi
「ふるさとの未来に灯りを灯そう」

2011年 第39代理事長 乙黒泰樹



◆スローガン

「勇往邁進」 ～チャレンジ!! 自ら考え行動する～

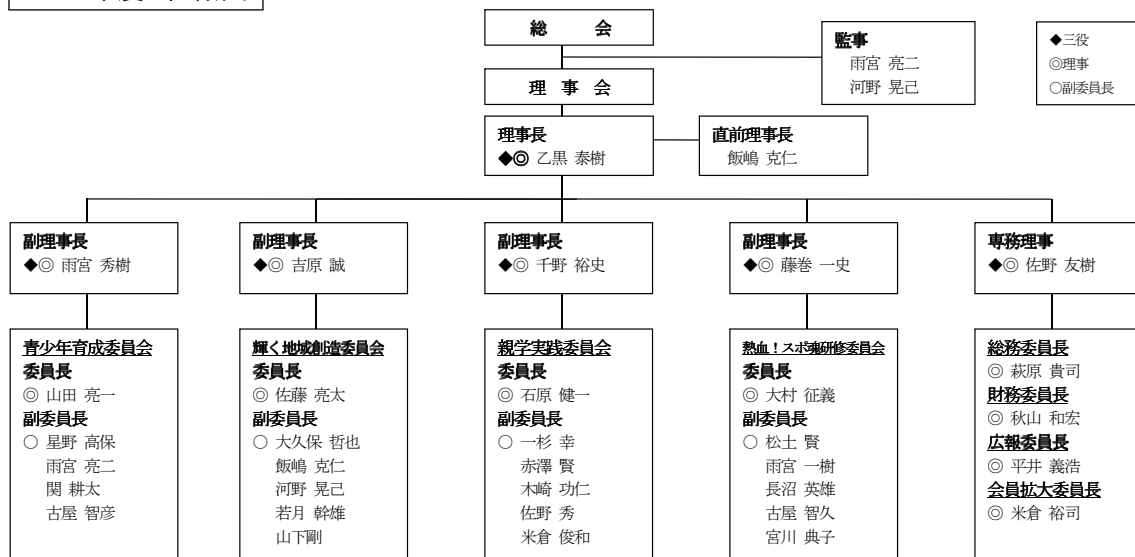
■ 当時を振り返って

公益社団法人山梨青年会議所が創立より40周年という節目の年を迎えられたことに、心よりお祝いを申し上げます。

私が理事長を務めた2011年度は、東日本大震災という戦後最大の国難があり、計画していた様々な事業の変更、修正を余儀なくされた一年でした。「勇往邁進～チャレンジ!! 自ら考え行動する～」のスローガンを掲げ、人材の育成がこのまちの発展に繋がると考え、青少年育成、親学研修、スポーツ研修を主な事業とし、地域力の向上を目指して活動しましたが、一年間全ての事業を成功裏に終えることができたのは、メンバー一人ひとりの頑張り、山梨JCの団結力の賜物だと考えています。また公益法人制度改革に伴い、この年に公益社団法人への移行認定が完了し、2011年12月26日から公益社団法人山梨青年会議所として新たなスタートを切ることができました。様々な意見や考え方があるにも関わらず、公益社団法人への移行に賛成してくれたメンバーに心より感謝致します。

公益社団法人として新たな一歩を踏み出した山梨JCが、これからも地域から必要とされる青年の団体としてさらなる発展を遂げると共に、一人ひとりが頼れるリーダーへと成長し続けることを心より期待致します。

2011年度 組織図



◆主な事業

○青少年育成事業

地域力の向上には、第一に青少年の健全な成長が必要と考え、山梨JCの伝統でもある青少年育成事業を3回開催しました。森、海、山といった自然での体験から多くの学びが得られるように、様々な工夫を凝らしたプログラムを実施し、3月の例会は東日本大震災の影響で残念ながら中止となりましたが、残りの事業では多くの子ども達に参加して頂き、子ども達の成長に貢献することができました。

○親学研修事業

かつては親から子へ自然に伝えられる形で精神的な教えがありました。それが失われてしまった現代だからこそ、私たちが若い親達と共に子育てについて学び、実践していく必要があると考え、親学を提唱し実践する高橋史朗先生の講演会を軸に、一年を通して私たちがどんな親になれば良いのか考え、山梨JC版親学十箇条を作成しました。

○スポーツ研修事業

青少年の体力低下や大人のスポーツ離れを問題とし、山梨市のスポーツ環境改善に貢献できるような事業を開催しました。特に山梨市内のスポーツ指導者に協力して頂き、小学低学年の子ども達を対象にしたやまなしスポーツフェスティバルでは、参加頂いた多くの皆様に運動することの重要性とスポーツの楽しさを知ってもらうことができました。



親子で楽しめる親学のお話とワークショップ



親学「親なら知りたい子育ての秘訣！」高橋史朗氏講演



海の自然探偵団 in 愛知県美浜町



海の自然探偵団 (スタンツ発表)



山梨スポーツフェスティバル



「NO SPORTS! NO LIFE!」
(体力測定・スポーツ吹き矢体験)in いい駅前どっと混む祭り!



ネイチャーアドベンチャー in 兜山 (クライミング体験)



新人例会「見直そう、自分自身のビジネスマナー」

2012年 第40代理事長 吉原 誠



◆スローガン

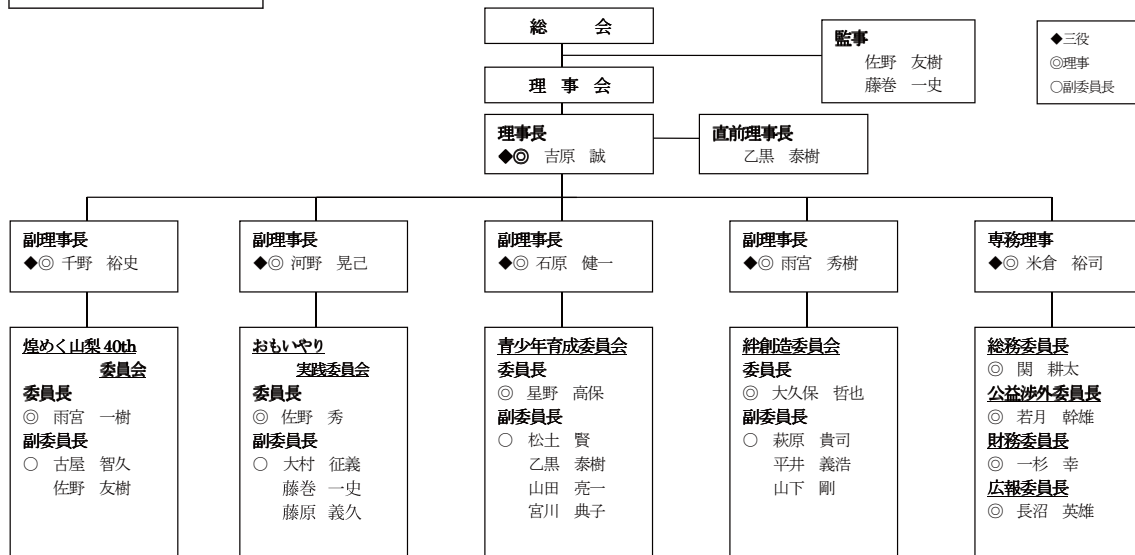
Imagine ～夢現の可能性を信じて～

■御礼

今日まで山梨青年会議所を築き上げて来られた先輩諸兄並びにご支援・ご協力頂きました関係者各位にあらためて御礼申し上げます。

今年度は40周年という節目の年という事もあり、もっとも大切な事は先輩諸兄の「熱い思い」をしっかりと受け止めるという事、そして「その思い」をしっかりと抱きつつ事業を行う事、そして来年度以降へその「熱き思い」を継承していくという事だと考え活動しております。まだ道半ばという事もありますが、最後の最後まで現役メンバーの心をつなげて邁進して参ります。

2012年度 組織図



★出向役員

公益社団法人 日本青年会議所 関東地区 山梨ブロック協議会
会長：乙黒泰樹 運営専務：佐野友樹 事務局長：山田亮一

◆主な事業

○煌めく山梨40TH委員会

40周年記念事業・40周年記念式典を開催致しました。記念事業として「やまなし音魂2012～郷土ふるさと創造～」と題し、市内各団体等をお招きし、フルーツ公園にて音楽フェスタを開催しました。今例会において100%例会を達成しました。

○おもいやり実践委員会

「春の遠足」と題し、障害児通園施設ひまわりさんと共催し、市内外の障害児並びにご家族計60名と1泊2日の宿泊体験事業を行いました。涙あり、笑いありの事業が開催でき、地域福祉の心を育む事を切に願う事業でした。

また10月においても、障害者福祉事業としてろうあ太鼓や障害者バンドのマリナーズをお招きしての音楽フェスタを開催致しました。

○青少年育成委員会

「夢さがし探検隊」と題し、3月にはパイロット・キャビンアテンダントをお招きしての講演会、4月にはそれを受けてのJAL整備工場へ工場見学を行いました。募集人員も予想を上回る50名の子供達に参加頂きました。また夏の事業として、一般社団法人甲州青年会議所との合同例会を開催しました。他LOMとの合同事業は貴重な体験と深い友情を育む事が出来ました。内容としましては、30名を上回る子供達を静岡県静波海岸へ1泊2日の宿泊体験事業を開催致しました。

○絆創造委員会

この記念誌制作委員会となっております。また同時に2月に開催した家族例会・12月に開催の卒業式の担当委員会となっております。



山梨ブロック協議会会長輩出



市長例会 (事業紹介及び意見交換会)



家族例会 (託児スペース)



家族例会 (年間事業紹介)



夢探し探検隊 3月 (親子勉強会)



夢探し探検隊 4月 in J A L 整備工場



障害児親子宿泊交流会 in 山中湖



夢探し探検隊 in 静波海岸



夢探し探検隊 in 観音山 (ドリームウオークラリー)

40周年記念事業

山梨JC40周年記念事業として、やまなし音魂2012～郷土ふるさと創造～を6月24日フルーツ公園野外ステージにて開催致しました。県内在住のアーティストの協力を頂き、音楽を通して山梨市の魅力を伝え、音楽の力による一体感の中で山梨市の明るい未来を感じてもらえた事業となりました。



大澤聡さん (オカリナ演奏)



ナナマリさん (ボサノバ演奏)



ピースダンススクール



三富小学校 (笛吹川甲州童太鼓)



エーデルワイス (アマチュアバンド)



伸太郎さんと大熱唱



40周年記念ソング

Imagine ~夢現の可能性を信じて~

作詞・作曲 / 伸太郎

あれから 40 年もの時間^{とき}が流れてる
 あなたから受け継いだ魂^{バトン}もここにある
 幸せと笑顔の種を育てても
 時には辛いことの方が多^おいこともある
 だけど僕等は負けはしない 強く繋いだこの手を離さない
 そうさ僕等は独りじゃない 固く交わした絆があるから
 Imagine 夢現の可能性 信じて Imagine 想像することから始まる
 Imagine 明るく豊かな社会を Imagine この熱い想ひ繋げよう

だけど僕等は負けはしない 強く繋いだこの手を離さない
 そうさ僕等は独りじゃない 固く交わした絆があるから

Imagine 夢現の可能性 信じて Imagine 想像することから始まる
 Imagine 明るく豊かな社会を Imagine この熱い想ひ繋げよう
 Imagine 夢現の可能性 信じて Imagine この熱い想ひ繋げよう
 Imagine . . .

フォトアルバム

70年代

1974年 ちどり湖畔 農事センターにて
認承証伝達式 創立時のメンバーにて記念撮影



相原清雄 赤沢昭雄 秋山栄一 雨宮彬 雨宮清紀 雨宮康夫 糸永允俊 岩間安則 内田光司 内田美征 乙黒袈裟彰
 金井和彦 神宿幸男 木崎義俊 窪田勝彦 小宮山勝 小宮山政雄 斉藤忠臣 斉藤親 斉藤徳彦 坂本勝明 佐藤寿昭
 佐野十三雄 清水良夫 新谷一男 鈴木弘昭 鈴木康夫 辻良幸 角田秀弘 鶴田六三 中沢忠明 中村昌訓 西島政紀
 平山弘 藤巻斉 藤巻征史 古屋雄三 星野洋 細入義彦 丸山公夫 宮本忠文 和田尚丸 樋川正彦 (五十音順)



74年サイクリング教室



交通少年団結成



78年 5周年記念式典



交通少年団による万力公園清掃

80年代



市議会議員選挙
個人連続演説会

サッカー大会



市民まつり「ふゅーちゃー」



88年 未来みつめて

89年 夢のなかへ



90年代

91年 92年 丸山浩路ステージ講演会



92年 20周年記念式典



ふゆーちゃー
万葉ロマン

阪神淡路大震災にてボランティア活動実施



95年 山梨再発見ウォークラリー

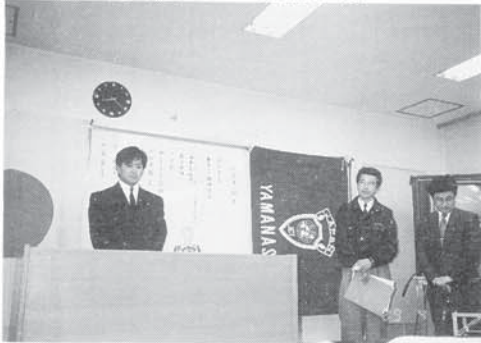


第11回サマースクール

96年 ホームステイ



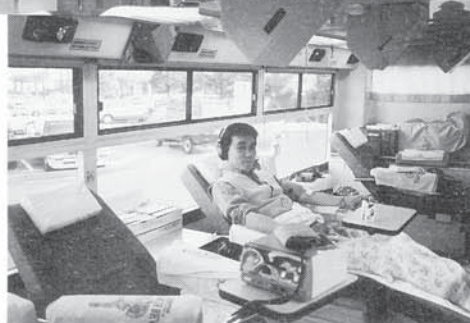
89年出向者報告会並びに入会式風景



信玄公祭り甲州軍団出陣



継続的に行われた献血活動



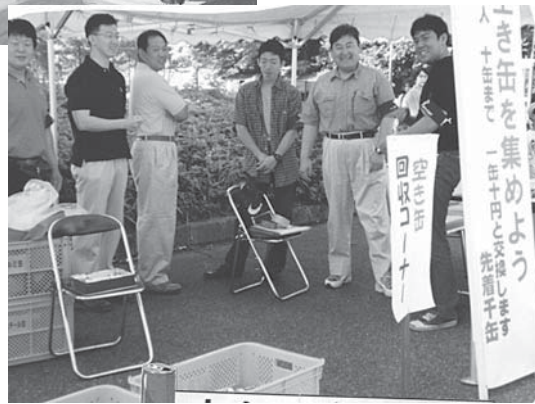
2000年代



2000年



平成根津学校



2001年



平成根津学校



2002年



30周年記念式典



家族例会(陶芸)



30周年記念事業映画上映会

現役会員紹介

雨宮 一樹 麻屋葡萄酒株式会社

私が入会し10年目の本年度、山梨青年会議所創立40周年の記念事業・記念式典・基調講演会の担当委員長をお仰せつかり光栄に思います。多くの先輩諸兄が培ってこられた歴史や伝統を未来につなぐべく、温故知新の精神で益々精進していきたいと思ひます。



雨宮 秀樹 雨宮光学機械株式会社

入会して10年。気がつけば現役一番の古株となりました。今回記念誌の作成を行いました。先輩方の築いてきた栄光の重みと、自身の歩んできた道のを振り返る度に感慨深いものがありました。入会してよかった。感謝しておりますし、この素晴らしい山梨青年会議所がずっと続いてほしい。そう思ひます。



石原 健一 学校法人双葉幼稚園

40周年という伝統を重んじ、若い我々が自らの街に何が出来るのか、考え行動していきたいと思ひます。このすばらしい地に生まれ、家庭、地域に育てられた恩を返せるよう青年会議所活動を取り組んでいきたいと思ひます。



大久保 哲也 やぶそば利久

まだ入会して3年目ですが、40周年という節目にJCメンバーとしているだけでなく、40周年記念誌制作に携わることができても光栄に思ひます。これからもJC活動を通して一回りも二回りも大きな人間になれるように頑張っていきたいと思ひます。



大村 征義 大村電気

青年会議所に入り40周年の節目を皆と共に祝い、迎えられることに万感の想ひです。私自身未熟であり、若輩者ではありますが、これからも地域の力になれるよう努力していきたいと思ひます。



乙黒 泰樹 甲州屋産業株式会社

1973年の創立より多くの先輩の皆様が山梨市のために尽力され、山梨青年会議所が40周年という素晴らしい歴史を紡いできた事に心より感謝致します。そして、公益社団法人として新たな一歩を踏み出した山梨JCが、地域から必要とされる団体として更なる発展を遂げる事ができるように、これからも会員一同力を合わせて邁進していきます。



河野 晃己 有限会社ライフショップこうの

40周年という節目は、これまでの青年会議所の活動を見直すいい機会だと思ひます。先輩方の事業の軌跡から今に置きかえて、学ぶべきことの気づきがたくさんあると感じます。私自身は本年度で卒業となりますが、今後様々な課題があるかと思ひます。みんなの力で乗り越え、50周年、60周年と繋げていくことを願ひます。



佐野 秀 甲府電器部品株式会社

何もわからぬままJCに入会し、早2年。思えば短距離走のように駆け抜けて行きました。そんな私も40歳となり、この記念すべき40周年にて卒業できることはとても感慨深いです。人との出会いは偶然でもあり、必然でもあります。メンバーの皆様にごうして出会えた事は、私の生涯の宝です。本当にありがとうございました。



佐野 友樹 有限会社アルファード日川木材センター

皆様に支えられて山梨JCは40周年を迎える事ができました。これからも地域から必要とされる存在であり続け、華々しく50周年を迎えることができるのか。その答えは我々の行動にかかっています。頑張っていきましょう。

**関 耕太** 有限会社関工範

入会しなくては得られない仲間、経験が宝となっています。これからも宝を探しに笑顔でがんばります。

**千野 裕史** 株式会社ちの工務店

山梨青年会議所発足から40年の今、このLOMで活動出来ていることを誇りに感じます。先輩方が受け継いできたバトンを絶やすことなく、明るく豊かな社会の創造にむけてこれから先も公益社団法人として地域に貢献する山梨青年会議所であってほしいと心から願います。

**長沼 英雄** 長沼製作所

JC入会後忙しく申し訳ないと思いつつも私自身できる形で活動し、お手伝いしてまいりました。今後も皆と共に活動を頑張りたいと思います。

**萩原 貴司** 有限会社萩原フルーツ農園

私の生まれる前から存続する山梨青年会議所の重みを感じ、今後も新たな歩みを進めていかなければならないと感じています。これからも明るい豊かな地域を創造するために。

**一杉 幸** 柳寿し

青年会議所に入っていなければ出来なかったことをいろいろと経験することができ、多くの仲間と出会えたことは私にとってすばらしい財産になっています。40年の歴史ある山梨青年会議所の一員である自覚を持ち、これからもがんばりたいと思います。

**平井 義浩** jammin'

山梨青年会議所40周年誠にありがとうございます。これを機に更なる発展心よりお祈り申し上げます。

**藤原 義久** 藤原時計店

まだ、何もわかっていない自分ではありますが、毎年更新されていく気温よりも、熱いJC活動を行っていきたいと思います。先輩たちが築きあげた山梨JCも40周年を迎えます、十年後に50周年が見れるように今後も精進していきたいです。

**藤巻 一史** 株式会社田丸

40歳不惑のその心地まで、私はあと5年もあります。いつまで経っても惑いそうです。いつまでも惑わぬJCであって欲しいものです。40周年おめでとうございます。



古屋 智久 有限会社古屋石材興業

青少年事業が盛んな山梨青年会議所で青少年育成委員会の委員長を経験させて頂き、内なる経験値アップと共に社会について大変勉強になりました。そのことが今では心の中の宝物になっています。これからも家庭に、仕事に、J Cに皆と共に邁進したいと思えます。



星野 高保 峡東振興株式会社

青年会議所は、地域の仲間が欲しかったら入会したほうがいいと思います。私は出身が甲府であり、山梨に知り合いもいないことから入会しました。入会からまだ数年で「仲間」が出来る組織であることを実感し、この伝統を作ってきた諸先輩方に感謝をして、これからもそうあり続けていかなければいけないと思っています。



松土 賢 株式会社松土建設興業

山梨青年会議所は創立40周年という記念すべき節目の年を迎え、こうして先達の取り組みを知る機会を得て感慨もひとしおです。私も子を持つ親の一人として青少年事業における地域教育の重要性を肌で感じているところです。今後も多くの子供たちの笑顔と関心を集める青年会議所にしていきます。



宮川 典子 自民党山梨県支部連合会

「地域のために」と残された足跡が、重なり合って今がある。多くの先輩方がつないだ経糸（たていと）に憧れながら、自らもその一部となって未来を紡げることが素直に嬉しいです。青年会議所の活動、先輩方やメンバーの姿勢に謙虚に学び、喜びを分かち合いながら、どこかに確かな足跡を残していけたら…と思っています。



山下 剛 株式会社山下精工

40周年記念を向かえ、偶然にも同じ40歳になる自分と照らし合わせて見ると、何か不思議な気がするのと同時に、長い歴史があることに感銘します。時代の変化と共に成長して行く大切さと、何時の時代でも不変な大切さを、改めて自己の基軸に込めたいと思います。



山田 亮一 一葉園

創立40周年の節目に在籍できたことに喜びを感じています。5年生の時に参加したキャンプが私の山梨青年会議所との最初の関わりでした。20数年後、脈々と流れる青少年事業の流れに委員長として携わることは当時は思いもよらないことでした。先輩諸兄の想いと経験の支えを胸に今後も活動に邁進していきたいと思っています。



吉原 誠 株式会社吉原明販

40周年という記念すべき年に理事長職に就けたことを、本当に光栄の事と感じております。記念冊子を作成するにあたりすべての歴代理事長にご挨拶させて頂きましたが、当時のお話を聞かせて頂くうちに、あらためてJ Cの魅力を感じさせて頂きました。本当に「J Cってすばらしい」と思います。J C最高！



米倉 裕司 有限会社 YEC 米倉電気

40年間続いてきた山梨青年会議所活動の思いを受け継ぎ、今後も更なる貢献ができるよう青年会議所活動を行って行きたいと思えます。



若月 幹雄 若月表具店

入会してから7年。いろいろなことがありましたが、たくさんの人に支えられながら、ここまで来ることができました。いよいよJ C生活も残りあと4年。次年度は副理事長の大役を仰せつかり、これまで以上に山梨青年会議所の一員として、J C活動に精進していきたいと思っております。



山梨青年会議所シニアクラブ会員名簿

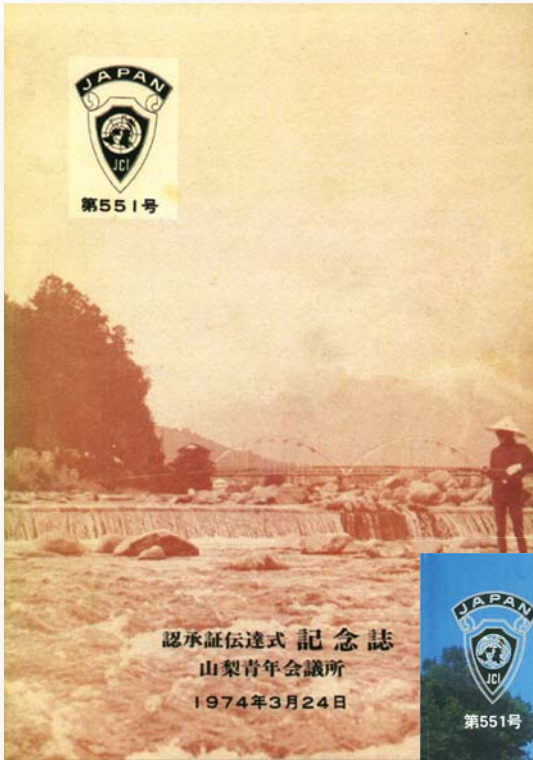
佐藤 寿昭	1977 年卒	唐沢真理子	1992 年卒	佐野 仁	2005 年卒
平山 弘	1977 年卒	武井 正英	1993 年卒	中村 孝	2005 年卒
坂本 勝明	1978 年卒	樋沢 博次	1993 年卒	阿南 敬典	2006 年卒
佐野十三雄	1978 年卒	古屋 泰仁	1993 年卒	岩間 安仁	2006 年卒
斎藤 親	1979 年卒	三森 智文	1993 年卒	古屋 秀樹	2006 年卒
窪田 勝彦	1980 年卒	市川 司郎	1994 年卒	奥山 晴男	2008 年卒
中村 昌訓	1980 年卒	藤原 久雄	1994 年卒	加々美勝征	2008 年卒
雨宮 彬	1981 年卒	有賀 雄二	1995 年卒	雨宮 武彦	2009 年卒
内田 美征	1981 年卒	三枝 司	1995 年卒	小林富美子	2009 年卒
萩原 紀	1981 年卒	小沢 章	1996 年卒	佐藤 正明	2009 年卒
藤巻 征史	1981 年卒	河島 右文	1996 年卒	根津 健一	2009 年卒
吉原 俊夫	1982 年卒	古屋 文仁	1996 年卒	清水 徹	2010 年卒
大村 正治	1983 年卒	望月 勝二	1996 年卒	水地 寛樹	2010 年卒
斎藤 忠臣	1983 年卒	山県 勉	1996 年卒	秋山 和宏	2011 年卒
斎藤 徳彦	1983 年卒	土橋 千昭	1997 年卒	雨宮 亮二	2011 年卒
雨宮 康夫	1984 年卒	早川 進	1998 年卒	飯島 克仁	2011 年卒
植野 一保	1984 年卒	丸山 親二	1998 年卒		
神宿 幸男	1984 年卒	奥山 弘昌	1999 年卒		(2012 年 10 月現在)
宮本 忠文	1986 年卒	藤巻 義彦	1999 年卒		
平塚 義	1987 年卒	勝村 浩司	2000 年卒		
望月 清賢	1987 年卒	坂本 秀二	2000 年卒		
萩原 秀樹	1988 年卒	土屋 真	2000 年卒		
新谷 一男	1988 年卒	大久保好朗	2001 年卒		
本間 愛教	1988 年卒	塚越 順治	2001 年卒		
小林 仁	1989 年卒	辻 真由美	2001 年卒		
萩原俊比古	1990 年卒	大澤 徳彦	2002 年卒		
初海 一	1990 年卒	小串 成人	2002 年卒		
藤巻 真史	1990 年卒	佐藤 栄一	2002 年卒		
古屋 省悟	1990 年卒	雨宮 和仁	2003 年卒		
代永 茂徳	1990 年卒	奥井 和也	2003 年卒		
米倉 仁	1990 年卒	三枝 美樹	2003 年卒		
藤巻 和哉	1991 年卒	坂本 智直	2003 年卒		
古屋 弘和	1991 年卒	岩間 正純	2004 年卒		
丸山 浩	1991 年卒	齋藤 雄太	2005 年卒		

物故会員名簿

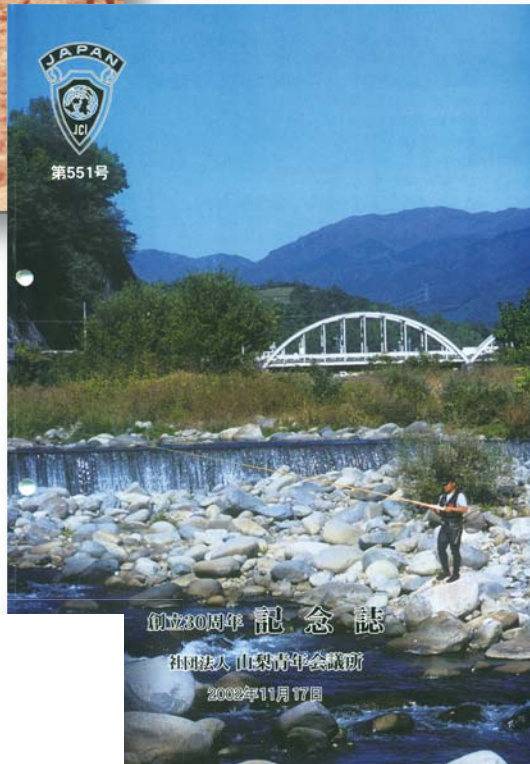
金井 和彦	1977 年卒	根津 嘉幸	1987 年卒
清水 良夫	1979 年卒	中村 照人	1989 年卒
中沢 忠明	1980 年卒	木崎 義俊	—
乙黒袈裟彰	1987 年卒	山口 孝也	—
加藤 元久	1987 年卒		

(2012 年 10 月現在)

歴代記念誌表紙



38年前に発行された
認証伝達式記念誌の
表紙写真



10年前に発行された
記念誌の表紙写真



特別企画として歴代記念誌表紙
と同じ構図にて本年撮影をした
写真です

編集後記

今年度、社団法人山梨青年会議所は、40年という節目を迎えます。この40周年という記念すべき年に会員であるという事、記念誌担当委員長を仰せつかり、光栄に思うと同時に、その責任の重大さをひしひしと感じながら進めさせて頂きました。その過程において山梨青年会議所の40年の歴史・活動を改めて知る事が出来たこと、歴代の理事長を始め数多くの先輩方と交流をもてた時間はとても貴重で、とても刺激を頂いた時間となりました。

1973年の創立当初より高き志と、強い使命感に溢れた私たちの先輩方が、「熱い思い」を抱きながら活動を積み重ねてきた歴史をどれほど伝えきれているかわかりませんが、委員会一同精一杯努めさせて頂きました。

立ち返り現在では日本は昨年発生した東日本大震災をはじめとして、経済、生活、社会活動に大きな変化をもたらし、私たち日本人の価値観や生き方にまで影響を及ぼす程の大きな出来事であり混沌としております。このような情勢のなか多くのNPO団体、行政においても心血を注いでおりますが、これまで「明るい豊かな社会」に寄与するべく歩みを続けてきた我々青年会議所だからこそ出来る事も多くあると思います。

昨年、社団法人より公益社団法人山梨青年会議所へ移行いたしました。これまでの歴史を継承し、この先も時代の変化を捉えた活動を次世代へとつなげ、未来の為に活動・貢献を続けることが大切であると考えます。

これまでの40年間ご尽力いただいた先輩方、ご理解ご協力をいただいた行政・関係諸団体、すべての皆様に感謝申し上げますと共に、新たな気持ちで創立45周年・50周年へ向け邁進してゆく私達に今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

記念誌制作担当 絆創造委員会委員長

大久保 哲也

40年のあゆみ

山梨青年会議所記念誌

発行日 平成24年11月3日
発行 公益社団法人 山梨青年会議所
〒405-0031 山梨県山梨市万力1830 (山梨市民会館内)
TEL0553-22-9655 FAX0553-22-9023
URL <http://www.yamanashijc.jp/>
編集 絆創造委員会 <記念誌制作担当>
統括責任者：副理事長 雨宮 秀樹
責任者：委員長 大久保 哲也
補佐：副委員長 萩原 貴司
：委員 平井 義浩 山下 剛
：出向 山田 亮一 星野 高保
：事務局員 日原 弘子
制作 株式会社 SPC
